堅実な守り･･･確かな勝利。

もし、ブラザーという企業をプレイヤーにたとえたとしたら、それは静かな闘志を内に秘めた、シャープなゴールキーパー。―――はげしい企業競争の中でブラザーがひとつの地位を得ているとすれば、そんな精神があらゆる処で顔を出しているのかもしれません。

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

モントリオールへの道

「合宿を終えたあと、これまでにない満足感があったンです」――全日本男子・竹野奉昭監督は、2月末から1週間、松山・新居浜市で行ったナショナルチームの強化合宿（49年度第7次）をこう報告している。何が竹野氏をそれほど「満足」させたのだろうか。

ナショナルチームが両市でキャンプを張るのは初めてとあって、地元協会をはじめ関係者の関心は高く、コートサイドには連日ノートやカメラをもった人たちでいっぱいだった。

チームも、そうした熱心な〝観客〟に応えて、A、Bに分かれての実戦を公開したほか、地元実業団（丸善石油松山、住友化学菊本）にショートニングマッチ～15分ハーフ～ながら胸を貸すなど精いっぱい報いた。

全日本の面々にしてみれば、ハードトレーニングの最中だしとても満足な状態で試合などできなかっただろうが、ともかく彼らの一つのプレー、一つの練習法が、地方の愛好者にとっては、どんな秀れた指導書にも優る〝手本〟だったのである。

こうしたナショナルチーム側の姿勢が、いっそうこの合宿の周囲を熱っぽいものにしたようだ。

この話を聞いていると、今、一般のハンドボール関係者が何を求めているのかもよく判る。

新しい内容のトレーニング、実のある試合……。

ナショナルチームはただ外国チームと戦うばかりではなく、今回のような国内のレベルアップにも役立つ事業を、積極的に進めてみてはどうか。

全競技者のなかからピックアップされたナショナルプレイヤーが海外遠征、国際試合などで得た技術を、在野に環元するのは一つの義務でもある。

また、それでこそ日本協会のいう「強化と普及」の二筋道が成り立つのであろう。

四国合宿で、〝愛されるナショナルチーム〟の自覚が芽生えたことも一つの収獲といえる。

ナショナルチームは憧れの的であり、羨望の的である。

それはまた、厳しい世間の目がつねに注がれていることを意味する。ナショナルチームが、全国の支持を集めるためには、どのような場合でも全力をつくすマナーを欠かしてはならない。

国民に、というのがオーバーなら、全ハンドボール界に愛されないナショナルチームは、栄光を目指す資格などないのである。

市民ハンドボールの芽

「体育のダメな子でしたのに大分ボールの使いかたが上手になり、まるっきりだったドリブルもかなり上達しました」「スポーツは好きだけど苦手、下手。学校の部活動には気おくれして入れない。そんな二人の息子がとても楽しんで最後まで参加しました」「小児ぜんそくで長い間苦しみました子ですが、すっかりよくなり、寒くなって参りましたが、カゼもひかずに元気に出かけて皆勤賞のトロフィーまでいただき大喜びでした」「外で思い切り遊ぶ機会が少くて、頭でっかちの身体の弱い子になるのを常日頃とても心配している者なので、当教室のように気軽に、しかも上手に指導して下さるのは、とてもありがたいことだし、嬉しいことだと思っています」――。

愛知ハンドボール教室に通う子供たちの父親、母親などから寄せられた手紙の一節である。

愛知の年少者対策は定評のあるところ。

名古屋市の小学校大会は、すでに25年近い球史を刻んでいるし、中学ハンドボール界の勢いも盛んだ。

そうした学校教育とは別に市民スポーツとしてのハンドボール教室を名古屋で開いたのは5年前

熱心な指導者、楽しいプログラムが評判を呼んで、いまや愛知の看板事業とさえいえる。

前にご紹介した父兄たちの手紙の最後には、きまって「来年も参加させます。よろしく」の一言が加えられており、入会希望者をどう調整していくか頭を悩ますこの頃だ（注・49年度の会員は159名）。

この教室から巣立った少年たちが、そのあと、どうハンドボールに親しんでいくかは、興味あるテーマだが、できることなら市民ハンドボールの旗手として成長して欲しいものだと筆者は思う。

〝学校スポーツ〟をくさすわけではないのだが、校庭で選手養成を目標に教えこまれたハンドボールと、楽しみながらのハンドボールとでは後者のほうがライフスポーツになりうると考えるからだ。

この教室の〝卒業生〟たちが町を単位にチームをこしらえてくれるようになったら、どんなにいいだろう。

名古屋にまけず各地で少年ハンドボールの種が蒔かれている。

そこから、ナショナルプレイヤーが育つことも、それなりの意味はあろうが、少年教室の指導者の描く夢の中で、それはあまり大きなことでない。嬉しい姿勢である。

「ハンドボール」

50年5月号（第130号）目次

【表紙】スペイン・グラノリエルス×静岡農高OB戦、バニョスの7メートルスロー（4月6日・静岡草薙体育館）

提供・静岡新聞社

理事長に荒川清美氏を5選

日本協会は3月29日午後1時から東京渋谷・岸記念体育会館で50，51年度新理事による初の全国会議を開き，役員選出を行った（定数33名以内，現在数27名，出席17名＝成立）

その結果，理事長には満場一致で荒川清美氏（54才，日体大出，日体大教授）を推せん，常務理事陣もわずかな異動があっただけで“荒川体制”は全国の与望をにない，力強く5選の道へ歩み出すことになった。

全国理事会 多難な年へ力強くスタート

技術渡辺、審判安藤氏も留任

新しい任期がスタートするにあたり、理事が定数を6名も下廻る〝小人数〟であったことは、おそらく史上初めてだろう。

これは田村正衛会長（＝2月23日の全国代議員会で4選・本誌128号参照）が、名より実をとる方針から会長推せん理事（14名以内）をおさえこんでいるためで、これまでの田村―荒川体制が、ち密な計算と企画によって事業を推進してきた〝自信〟も大きな裏付けとなっている。

会議は、まず規約改正により注目のうちに開かれた第1回全国代議員会（2月23日・東京）の報告と、内外に大きな反響を呼んだ世界女子選手権アジア予選決勝・日本対イスラエル戦の運営について の報告が行われ、いずれも論議に発展することなく了解がとりつけられた。

しかし、財政問題に関しては、前途への不安がつのり、加盟金、登録金が頭打ちとなっているだけに、新たな財源確保を全組織あげて検討するよう、改めて申し合わされた。

田村会長も「新しい収入の道を求めるためには、協会運営の抜本的検討を迫られており、〝体質改善〟してことに当られれば活路を見出せなくなることも予想される」と発言、事態は極めて深刻であることを強調した。

出席した各理事も、ここ数年における協会事業の巨大化・国際化と、物価の高とうで、ますます中央、地方とも財政危機に見舞われている二点が協会運営に復雑な影を落としあっていることを、充分に受けとめており、50・51年度の最重点施策は「財政問題」におかれるムードとなった。

なお、本誌既報の50年度一般会計予算は原案どおり承認されたが事業細目は新専問部による手なしが行われる。

中学部は普及指導部に吸収

注目の理事長選出は、こうした難局を切り抜ける人材、キャリア識見という点で、荒川清美氏の重任を望む声が圧倒的となり、発言を求められた田村会長も強くそれを要望したため、投票（互選）に持ちこまれることなく、極めてスムーズに5選が満場一致で決定した。

各専問部長を含む常務理事の選任については、荒川理事長が、会長、副会長と協議して、推せんすることとなり、別掲のようにまとまった。

いわゆる競技系3部は、頂点強化をあずかる技術部が渡辺慶寿氏（日体大出）、審判部が安藤純光氏（法大出）といずれも留任、好調の施政にいっそうみがきをかけることとなった。

特に、安藤氏は、42年度の荒川氏が理事長になったのと同時に、このポストへ就いており、レフェリー・ソサイエテイの確立という大きな目標を順調に遂行してきている。

在京理事の中心としても荒川理事長を補佐する大きな存在。

渡辺氏は、前期は普及指導部長との兼務などあり、そのカラーが打ち出されるのは、むしろ今期以降だ。

荒川理事長は、モントリオールに向かって、ミュンヘン時のようなオリンピック対策部を設けぬ意向のため、男女オリンピック出場という宿願を1年後に控え、同氏の若い感覚に満ちた行動は多いに期待される。

問題は宮本西嗣氏の辞退による普及指導部長。

荒川構想では、全国教育系大学研修会の継続や中学部も吸収してすべての普及活動を一元化されるとしているだけに、これまで以上に重要なポストとなった。

人選は、会長―理事長一任となり、その後、別掲のように元技術部長の情熱家・勝繁夫氏の起用が決まった。なお、3部合同会議は6月ごろ再編成される模様。

財務、神田氏らで新構想

総務・嶋田、企画は滝口氏

事務局系役員は総務・嶋田新太郎（日体出）、企画・滝口三郎（明大出）、財務・神田清（日体出）の各氏が決まった。

新たに2理事（会長推）決定

日本協会・田村会長と荒川理事長は、3月29日の全国理事会で、会長推せん理事の補充について一任をうけていたが、4月に入り人選が進み、本誌〆切（4月22日）までに、次の両氏の就任が決まった。

境井秀三（東大出）、勝　繁夫（立教大出）。

境井、勝氏ともにカムバックで、荒川理事長は勝氏に普及指導部長を、境井氏に国際担当を要請。両氏とも4月19日の月例常務理事会で了承した。

会長推せん理事の枠は、あと4名を残すが、田村会長は本誌の質問に対し「初の試みとして女性役員の登用を検討したがまとまらず、当分の間空席のままにしておく」と語っている。

昭和50．51年度日本協会執行部

- ・会　長　田村　正衛
- ・副会長　保坂周助，西敏郎，林達夫，徳永陸繁
- ・理事長　荒川清美（会長推）
- ・理　事　（○印常務理事）
  石切山稔治(北海道)，森恭一(東北)，入江暢一(関東)
  末　　定(東海)，志田省吾(北信越)，森田正英(近畿)
  猪原昭(中国)，越智武(四国)，藤田八郎(九州)
  中沢重夫(学連)，田中秀夫(学連)，清水正(高体連)
  ○嶋田新太郎(高体連)，横地宇吉(実連)，○山田稔(実連)
  片瀬喜代次(教職連)，柳井文治(教職連)，富永劭(自衛隊連)
  古庄昌雄(自衛隊連)，○安藤純光(会長推)，○泉正明(会長推)
  ○神田清(会長推)，○光嶋浩(会長推)，○大野金一(会長推)
  ○滝口三郎(会長推)，○渡辺慶寿(会長推)，○勝繁夫(会長推)
  ○境井秀三(会長推)
- ・監　事　町田歳雄，宮崎慎六（＝交渉中）

〔常務理事会担務〕
- ・技術部　渡辺慶寿（部長）
- ・審判部　安藤純光（部長）
- ・普及指導部　勝繁夫（部長）
- ・総務部　嶋田新太郎（部長）
  同国際　境井秀三
  同会計　光嶋　浩
- ・企画部　滝口三郎（部長），大野金一
- ・財務部　神田　清（部長），泉正明，山田稔
- ・海外駐在代表　綿貫敏雄（在クウェート）

5年間に亘り荒川体制のマネージメントを切り廻してきた総務企画部長の杉山茂氏の辞意が固かったため、新しいスタッフの編成にはかなり苦慮したようだが、結局総務、企画を二分することとなった。

嶋田氏は高体連副部長のかたわら、45年度下半期から杉山氏とともに、日本協会の直轄事業をほとんど手がけている。氷見市(富山)居住のため、在京の若手を副部長格として登用することになりそう

滝口氏は、東京協会理事長のほか、学連関係の役員もつとめているが、学生時代から運営面には一家言もっており、オリンピック予選などで、その手腕が発揮されることになろう。

注目の財務は神田氏の留任となった。四苦八苦の台所を、ともかく〝運転〟してきたのは氏の情熱に負うところが大きいが、新年度はいっそうの苦難が予想されるため大阪協会でコンビを組む山田稔氏（全日本実連理事長）と泉正明氏（前全日本実連理事長）を新たに担当常務理事として加えている

また、危機突破のため財務委員会を特設、柳井文治（理事・教職員）、中沢重夫（理事・学連）、富永劭（理事・自衛隊連）、山田稔（常務理事・実連）、清水正（理事・高体連）の5氏を委員に決めた。

収入リミットが二千八百万円程度に対し、今後の事業要求は毎年四千万円を越すとみられるだけになみたいていの手段ではコトは運ばぬだろうが、一ふんばり願いたい。

このほか、会計担当に光嶋浩氏（早大出）が推された。

また、国際担当と広報担当は理事長一任となり、編集部は今年度から理事長直轄の委員会に改組されることに決まった。編集委員会は、執行部外のメンバーも加えて5月から活動に入るよう準備される。

引きつづき顧問、参与の推せんに進み、顧問6氏、参与8氏をリストアップ、全国代議員会の承認（文書）を求める手はずとなった（編集委注・顧問、参与氏名は全国代議員会承認後に掲載します）

また、日本体協派遣役員は、評議員が徳永陸繁氏（副会長）から、JOC～日本オリンピック委員会～委員が渡辺和美氏（前副会長）から、いずれも荒川理事長に変更することでまとまった。

徳永氏は前期、荒川氏が日体協理事になったためつとめていたもの、渡辺氏はIHF（国際ハンドボール連盟）アジア選出理事専念を望む声が高まっていたもの。

海外遠征の選手枠14名に

人事関係が一とおり落ちついたあとは、協会事業（50年度）の検討に入り、来年にせまったモントリオール・オリンピックへ向けて最善の対策をとるとする方針を継続させることに異議はなく、一方普及面では藤田理事（九州）が「小学校女子教材として必須化させる」努力を強く望み、理事長が中心となって働きかけを推進することとなった。

強化面で、従来の路線が修正されたのは、ナショナルチームの海外派遣人数だ。

財政事情から荒川理事長は、48年秋「当分の間、選手は12名」の線を打ち出していたが、その後ナショナルチーム関係筋から増員の要望が強く、この会議でも後押しの意見が目立ち、荒川理事長も「役員2名、選手14名以内」と緩和することに折れた。

したがって、今秋のプレオリンピック（男子、モントリオール）、今

冬の第6回世界女子選手権（キエフ）はこの線にそって選手選考を行うが、その方法については、理事長―技術部長―ナショナルチーム監督で話し合われる。
　消息筋は、プレオリンピックについては現在の第1次モントリオール候補選手21名の中から選ばれるとみている。

全日本総合、手直しせず

　この会議の焦点の一つとみられた全日本総合選手権の改組は、この問題を諮問されていた3部合同会議が、いくつかの改訂案を示しながらも結論的には、今年度は旧来どおりのシステムで行く、としていたため、大きな動きは出ずに終った。
　しかし、3部合同会議も、この日の出席者もいっそうの精鋭化を望んでおり、少くとも51年度には変化を遂げることになりそう。
　基本的には各分野の代表を総花的に集めるのではなく、8～12チームにしぼりこむ方法が検討されるだろう。
　これに関連して神田理事から全国社会人（クラブ）大会の開催に踏み切るべきではないかとの提案があり、普及指導部と企画部での検討を決めた。
　今冬12月10日から14日まで東京体育館で開く第27回全日本総合選手権の出場枠は、理事長の示した次の原案（男16、女12チーム）を承認した。

	男	女
▽前年度優秀	2	2
▽全日本実連推せん	4	4
▽全日本学連推せん	3	2
▽全国高体連推せん	1	1
▽全日本自衛隊連推せん	2	…
▽全日本教職員連推せん	1	…
▽全国社会人代表	2	1
▽次年度国体開催地代表	…	1
▽開催地代表	1	1

（注）前年度優秀は、男子が大同製鋼（愛知）、三景（東京）。女子が東京重機（東京）、日本ビクター（茨城）。

アジア予選、慎重に対しょ

　モントリオール・オリンピックアジア予選(男)については、日本開催を前向きに検討する、としながらも、女子の日本×イスラエル戦の異常さを繰り返してはならないとの発言もあり、組み合せ決定後（注・本誌8頁参照）、常務理事会によって決断するとした。
　現在、同予選のため確保されている体育館は東京体育館（11月25～26日、51年2月17～22日、3月9～11日）、愛知県体育館（11月25～30日、51年2月2～4日、3月1～7日）、大阪市中央体育館（11月28～30日、51年2月13～15日または2月6～8日、3月12～14日）の3会場。このほか、静岡協会が受けいれを検討中なことも明らかにされた。
　未決定の第22回NHK杯国際試合（9月6、7日・東京体育館）はこの会議でも進展せず、休会の気配が濃くなった。
　アジア球界をはじめとする国際問題については、現状報告に対して特に発言はなかったが、すべて波乱ぶくみという意識が徹底しており、ケース・バイ・ケースで会長、理事長ら首脳陣が善処するよう暗黙の了解があるとみてとれた。

地方に密着した施策を

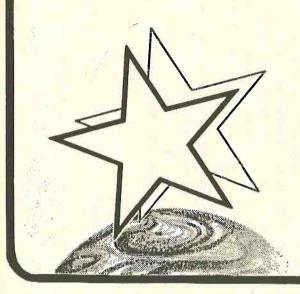
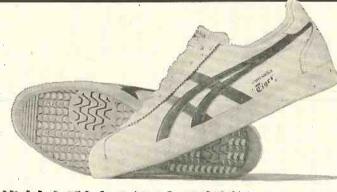
　こうして、荒川体制は、9、10年目へと突入したわけだが、待ちうけている課題は、過去8年間とは比べものにならぬほど厳しく、険しい。
　しかも、そのスケールは極めて大きく、時には政治がらみの難題も立ちはだかろう。
　田村会長―荒川理事長のパイプは、いっそう太くたくましくなっており、常務理事の結束も、かつてないほど強固といわれ、一丸の前進になんら不安はないが、やはり、希望の明日を迎える源は、全国の理解・協力・支援以外にはないのだ。
　その意味で、新体制がこれまで以上に地方球界との密着を強め納得のいく施策を展開することが望まれる。

充分、それに応えられるだけの顔ぶれである。
　なお、東海選出理事で日本協会最古参の一人として活躍されていた栗脇巌氏の執行部勇退が確定的となった。後任は4月27日に発表される予定。

山田監事理事に　日本協会監事として前期に引きつづき代議員会の推せんを受けていた山田稔氏はこのほど全日本実連理事長に推され、同時に、実連の日本協会派遣理事と決まったため、監事就任を辞退した。

自衛隊連盟住所変更　全日本自衛隊連盟はこのほど連盟所在地を次のように変えた。
茨城県勝田市勝倉三四三三・自衛隊施設学校総務部気付（電〇二九二（74）三二一一）

教職員連盟も　全日本教職員連盟はこのほど連盟(事務局)所在地を次のように変えた。
埼玉県戸田市新曽一、〇九三・埼玉県立戸田高校内（電〇四八四（42）四九六三）

5月17日に全国理事会
　日本協会は、モントリオールオリンピックアジア予選問題、財政問題などを協議するため5月17日午後2時から東京・岸記念体育会館で全国理事会を開く。

田村—荒川体制の課題を考える

田村正衛会長—荒川清美理事長が四たびコンビを組み、一大難局と云われる新年度をスタートさせた。横たわる課題が厳しければ厳しいほど、両氏にかけられる期待は大きなものがあるのだが——。（編集委員会）

財政問題

最大の問題点である。田村—荒川体制の、などというより、日本ハンドボール界そのものの〝死活〟を握っている。

卒直に云って、日本協会の財政施策は、もう20年近く伸展を見ていない。

相変らず、組織の加盟金、チーム・個人の登録金に頼る極めてもろい基盤のままだ。

アマチュアスポーツと云うのは自分たちのお金で、あるいは、自分たちが集め得る範囲で活動するのが本筋かも知れないが、それはあくまで理想論。

斯界が発展するためには、やはり財源が必要なのである。俗な言葉に替えれば、お金がなければ何も出来ないのだ。

これまでの田村—荒川体制は、みごとなまでに本筋論を通してきた。

「アマチュアなのだ。清く貧しくだってかまわない。強化も普及も、みんなの出し得るお金でやろう」と云うのが、田村会長のモットーだった。

イージーに財界、企業に援助を求めるのは好ましいことではないが、事業の拡大、物価の高とうは最低必要経費さえも〝出し得るお金〟ではまかない切れなくなりそうな雲行きである。

本誌でも再三伝えられているように、50年度予算(一般会計)は、その第一次査定段階で約八百万円の不足をさらす、異例の編成となり、代議員会（2月・東京）で物議をかもした。

支出の増加に対し、収入の幅のふくらみが望みうすなことも、事態をいっそう深刻にしている。

組織やチーム、個人の負担は現在額ですでに沸騰点と云われ、仮に増額を決行したならば、地方及び底辺各層への環元要求が、一斉に叫ばれるだろう、という。

執行部にとっては四面楚歌ともいえる情勢である。

田村—荒川体制も、この危機突破には、これまでのような組織、チーム、個人に協力を求めるのではなく、抜本的な対策—場合によって日本協会の体質を急転回させるような思い切った姿勢を採らねばならないだろう。

一部には「日本協会が財政危機に見舞はれているのは、純粋さにこだわるがあまり、企業などの協力を望まないからだ」という声もある。

たしかに、経済的なバックアップを受ければ受けるほど、その分野からの発言力が高まってくる。

現実に、2月の全国高体連ハンドボール部全国委員会では、高校チームの日本協会に対する財政的貢献度に比べ、日本協会の高校界への見返りが少なすぎる、という発言が何時になく目立ったそうだ。

このあたりのかねあいは実に難しい。

ただ、日本協会が財政基盤を現状のままにしておくと、早晩、内部崩壊する危機に見舞はれよう。

収入の望める事業の開発、半恒久的な資金後援体制の確立は急務で、協賛基金の募金案がすでにできあがったとも伝えられるが、消息通は、新・田村—荒川体制の2年間は、財政問題がその総てである、とさえ云い切っている。

アジア問題

荒川氏が42年に理事長を初めて引き受けた時、アジア地域のIHF（国際ハンドボール連盟）加盟国は、日本と韓国の2ケ国にすぎなかった。（注・イスラエルはユーゴなどと欧州地域地中海ゾーン所属）

それから8年、その数は12ケ国に伸びた。実に6倍増である。

発展を喜ぶ一方、さまざまな問題が、その影を落としはじめ、復雑な糸がからみはじめている。

特に、昨年9月、テヘランで突然産ぶ声をあげたAHF（アジアハンドボール連盟）問題に、日本協会は、静観の姿勢をとつているが、このままとはいくまい。

アジアで盟友の増えることを望み、アジア競技大会への参加を望んできた日本協会にとって、その両方を実現させたAHFの結成はなんのためらいもなく賛同すべきであろうが、それを思い留まらせているのは、このAHFを、IHFが黙殺、事実上認めていない事情による。

AHFの発起国は、クウェート中国、パキスタン、インド、朝鮮民主主義人民共和国、イラク、バーレーンの7ケ国で、このうちIHF加盟国は、クウェート、インド、朝鮮民主主義人民共和国の3ケ国（イラクは準加盟国）。

昨秋10月のIHF総会は、AHF結成の件を、未加盟のパキスタンが持ちこんだこともあって、議題にさえ採りあげていない。

このため、日本協会は、IHFの公認しない機構への参加は慎重にすべきだとして、成りゆきを見守っているわけだ。

IHFは、4月17日「AHFは準備中の規約を廃棄するように」と第二矢とも云うべき勧告を出しており（=本誌11頁参照）、前途の混乱が予想される。

AHFは、今秋10月クウェートで結成会議を開くことに決めているが、日本協会も、出席か欠席か態度の決定が迫られよう。

IHFが、新たな提案(規約)を示した時、このAHFが、はたしてそれに従うかどうかは疑問であり、一方、そのIHFの方向にそったアジアの組織が生まれることも考えられなくはない。

現時点では、まだ傍観も許されようが、その場になって右往左往することだけはさけねばならない。

また、すでに相当な実力を備えていると云われる朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮、IHF加盟国)や中国（IHF未加盟国）との交流も、他競技が積極的に推し進めているだけに、この流れへ乗り遅れてはならないだろう。

北朝鮮との交流については、4

月8日、来日中の同国体育代表団（キム・ドクジュン団長）と荒川理事長が東京で会見しており、具体的な話し合いはなかったものの近い将来、親善試合が実現できそうだ。

中国との関係は、日本協会は48年1月21日の全国会議（評議員会理事会）で、47年秋にJOC（日本オリンピック委員会）、日本体協が打ち出した『中国承認』の意思を尊重することを申し合せた以外、これといった動きを示していない。

しかし、本誌などで中国の活溌な試合ぶりが伝えられるために、中国との接近を促進すべきだ、という声が高まっている。

ご承知のように、中国は、台湾がIHF加盟国である以上、自から国際ハンドボール界の公式メンバーになることはないわけだが、ヨーロッパの一部から、中国招へいの提案が出される可能性は強いのだ。

田村正衛会長

荒川清美理事長

JOC、日本体協、IHFなどの意向を汲むのもよいが、日本協会としての信念を打ち出す時が、この2年間に、到来する可能性は極めて濃い。中国がIOC（国際オリンピック委員会）に復帰すれば事態はいっそう急テンポとなる

いわゆるイスラエル問題も、悩みの種であろう。

IHFは、アジアを「極東」「近東」に分ければ、この問題は一応解決すると踏んでいるようだが、なんとイスラエルは、日本などの「極東」にしばらくの間入れ欧州移行は早くても1年余先の話だそうだ。当分は、日本側が遠征する覚悟を固めるべきかもしれぬ。

国際問題はめまぐるしく動く。その場その場で的確な判断が不可欠であり、とりあえず今春発足させている国際問題委員会の活動をより増強して対しょすべきだ。

また、IHFに対し、アジアの特殊性を充分に説明し、ヨーロッパと同じ物指しで計ると、混乱の原因になることを理解させる努力もしなくてはいけない。

国内問題

初選出以来、つねに「ガラス張りの政治」を公約している田村―荒川体制だけであって、次元の低いトラブルは、ここ数年完全にカゲをひそめた。

当り前の話なのだが、全役員が奉仕を建前とする競技団体では、なかなか巧くコトは運ばないのである。

日本協会が、ともかく内外から「小じんまりとまとまった団体」と評価されているのは、誇っていい。

全面的な規約改正によって代議員制を採用したことも、国内の発展、結束を強めるものとして、おおむね好評である。

とは云え、課題がないわけではない。まだまだ反省の余地は多いし、前進のための研究、努力が必要である。

なかでも、日本協会の進む道が普及優先か、頂点強化重点かは、新体制のテーマとして大きくクローズアップされよう。

これまでは普及と強化は両輪というのが〃常識〃であった。

協会活動も、そのウェイトを50―50に置いてきた。

それが、市民スポーツ意識の昂揚もあって、競技団体の云う普及と、〃一般〃に云う普及とは、次第に異質なものとなってきたことで様相が変ったのだ。

これまでは、普及といえども、それは秀れた選手を輩出するための畑づくりというニュアンスが濃かった。

卒直に云って、本部協会はいぜんとして競技力向上主義である。

これは、競技団体という性格上肯定されてしかるべきだろう。

しかし、地方組織はそうはいかない。この中央と地方のギャップが問題なのである。

その兆候は、2月の全国代議員会の代議員―執行部間のいくつかの論争でもうかがい知れる。

極言すれば、中央と地方の施策のウェイトの置きかたが、シーズン毎にずれ始めているのだ。

早い時期に調整しておかないと、この食いちがいは、日本協会の屋台骨を揺がすことになりかねない。

思い切った体質改善を

日本協会の新しい生きかたとして「日本協会は、すべての加盟団体（全国連盟）と絶縁し、地方協会を通じて、日本協会登録を望むチーム」でのみ組織すべきではないかとする意見がある。一笑にふすべき見解ではあるまい。

この特集記事は最後にきて、がぜん現実ばなれした話になってしまったが、仮にこの極論が実現した時の日本協会を考えてみたい。

現在の高校チームはすべて日本協会から離れるであろうし、学生チームも8学連の上位校が残るだけ、企業チームもせいぜい50程度だろうから、日本協会の世帯は、初年度200チームが確保できれば上出来である。

地方協会はこれまで通りのシステムだし高体連、学連なども存続するだろうから、インターハイ、インターカレッジなど各種別大会は日本協会とは関係なく引きつづき開ける。

日本協会はIHFとJOC、日体協への加盟権をもち、全日本選手権を最大にして無二の行事とする（もちろん、この選手権は日本協会登録チーム以外は出られない）。ほかには国際試合の開催程度しか事業はない。

日本協会の傘下に加った初年度の200チームが250になり、一千になり、二千になるためには、また40年近くかかるかも知れない。

だが、全国の与望を荷って重任された田村―荒川体制が、単に今日からの2年間という任期を、これまでの延長と考えて安易に対処するようでは、日本ハンドボール界の大発展はあり得ない。総点検の時なのである。

体質改善で横たわる問題を切り抜けていこうとするなら、せめていま極論と断って掲げたような思い切った施策を打ち出すぐらいの姿勢が欲しい。過去8年、いくたびかの試錬を乗りこえ、難関・危機を突破した田村―荒川体制は、今こそ日本ハンドボール界100年の大計のためその全エネルギーを燃やすべき時と云えるのである。（了）

日本、韓国など5カ国が参加 オリンピック予選
世界女子はルーマニアらと同組

今シーズン最大の焦点といわれる「モントリオールオリンピック男子大陸別予選」と「第6回世界女子選手権（予選リーグ）」の組み合わせは、4月13日ドルトムント（西ドイツ）で開かれIHF（国際ハンドボール連盟）理事会で抽せんによって決められた。

「モントリオールオリンピック男子大陸別予選」はミュンヘン時の37カ国を上廻る40カ国がエントリー。日本は韓国、イスラエル、台湾、クウエートらとアジア代表（1カ国）を争うことになった。アジア予選はアウトドアでの開催も承認される。

今月12月キエフ（ソ連）で行われる「世界女子選手権」は予選を勝ち抜いた10カ国とIHF推せん2カ国の計12カ国が参加、アジア代表として5度目の出場をする日本はA組に組み込まれ強豪と並んだ。

◇モントリオールオリンピック（男子）大陸別予選組み合せ

▽アジア地域（代表1カ国）

日本、韓国、イスラエル、台湾、クウエート（試合方法未定）

▽ヨーロッパ地域（各群1位が代表）

- ・第1群　ユーゴスラビア、ルクセンブルグ、アイスランド
- ・第2群　チェコスロバキア、スウェーデン、イタリア
- ・第3群　ハンガリー、ブルガリア、スイス、ファロー諸島（このグループのみ4ケ国）
- ・第4群　ソ連、フランス、オーストリア
- ・第5群　東ドイツ、西ドイツ、ベルギー
- ・第6群　ポーランド、ノルウェー、イギリス
- ・第7群　デンマーク、スペイン、オランダ

▽アメリカ地域（代表1カ国）

アメリカ、メキシコなど5ケ国の参加が予定されている

▽アフリカ地域（代表1カ国）

チュニジア、アルジェリアなど4ケ国の参加が予定されている

◇第6回世界女子選手権予選リーグ組み合せ

- ・A組　ルーマニア(2位)、チェコ(6位)、ノルウェー(8位)、日本(10位)
- ・E組　ユーゴ(1位)、ハンガリー(4位)、デンマーク(7位)、チュニジア
- ・C組　ソ連(3位)、ポーランド(5位)。東ドイツ(9位)、アメリカ

注＝（　）内は前回の世界選手権順位

解説

波乱ぶくみ、アジア予選

オリンピック予選

ミュンヘン大会の時は一九七〇年の第7回世界選手権（フランス）の上位8カ国に無条件で出場資格を与え、残る八つの座をヨーロッパ5、アジア、アメリカ、アフリカ大陸各1で争ったがモントリオール大会は、出場国が12カ国に限定されたこともあって予選を免除されているのは昨年の第8回世界選手権（東ドイツ）優勝国ルーマニアと、開催国カナダだけ。その他の10カ国はすべて予選を経て決められる。

すでに、IHFは、大陸別配当数をヨーロッパ7、アジア、アメリカ、アフリカ大陸各1と発表していたが、それにしても、各地域とも想像以上の激戦である。

IHFが、13日の会議でヨーロッパ地域のみ、その組み合せを発表、他の3地域（大陸）については、当該国、関係国間で細目を決めるよう申し合せたのは注目される。

IHFが、ようやくヨーロッパ以外の勢力に、一歩を譲ったともいえるし、ヨーロッパを離れた問題を捌ききれないともみれる。

特に、アジアに関しては、先に日本協会が、世界女子選手権予選の決勝日本×イスラエルを「密室試合」で行ったことや、その前の段階で韓国がイスラエルの入国に難色を示したこと、インドがイスラエル戦をさけたことなど、により、復雑な情勢を感じさせたようで、極めて〝慎重な〟態度で臨んできている。

かたくなに「室内」を規定づけていた会場を、40m×20mならばアウトドアでもさしつかえない、とした〝譲歩〟は、これまでのIHFの強腰からは想像もできないすべて〝本場なみ〟を要求していたレフェリーの割当や使用球についても、アジアはアジアでまかなう見通しが、これである程度はついたといえる。

IHFは、当り前のことをするのに、つまらぬ権威主義を振りかざしたがあまり、ずいぶん廻り道をしたものだ、と筆者は思う。

開催地、宙に浮く懸念も

ところで、アジア予選はどうなるだろう。

IHFは、日本など5カ国をどこか1カ所に集結させ、2回総当り戦の実施を望み、近く5カ国に対し「開催意思」を打診（文書）すると伝えられる。

日本協会は、1月26日の全国理事会時点では原則として「日本開備」を準備するよう決めているが（＝本誌128号参照）、日本×イスラ

エル戦後、理事間に「モントリオール予選は慎重に対しょすべきだ」という空気が流れはじめ、微妙になってきている。
荒川理事長も非公式ながら「日本開催にこだわらない」というニュアンスの発言をしており、「日本誘致はない」と断言する消息通もいる。
国際情勢を考えると、はたして名乗りをあげる国があるのか疑問視され、最悪の場合、5カ国とも〝辞退〟して、宙に浮くことも考えられる。
その場合、IHFがどのような手段をこうじるかが問題だ。
予選期日は今秋11月3日から来春3月7日までとされ、わずかながら余裕はあるが、すべてが決定されるまでには、多くの曲折が予想でき、波乱ぶくみだ。
戦力的には、韓国、イスラエルのレベルアップを計算にいれても日本優位は動かせない。
なお、アジア地域からIHFに加盟している国が12と伸び、この予選も6～8カ国のエントリーがあるのではとみられていたがインド、ホンコン、シリアなどが断念朝鮮民主々義人民共和国も、4月来日した同国体育代表団が荒川理事長に話したところでは「戦力的に時期尚早」で、参加を見合せている。

東西ドイツがぶつかる

他大陸で話題となるのは、やはりヨーロッパ。フィンランド、ポルトガル、シプルスが棄権したためミュンヘン時の24カ国を下廻ったのは意外だが、各群とも強豪がひしめきあい、なかでも、東西ドイツが第5群で激突することになったのは、センセーションを巻きおこしている。
現段階で東ドイツの有利は否めず、近代ハンドボールの祖国といわれる西ドイツが、オリンピック世界選手権という桧舞台から落ちる〝危機〟に直面しているからだ。
西ドイツの週刊ハンドボール誌はもとより、国際的スポーツ紙〝レキップ(フランス)〟も、組み合せ決定直後、高名なハンドボール記者・ギイ・ゴウベル氏がドルトムントから大々的な特電を打っている。
また、ミュンヘンで東欧6、北欧4、中西欧2という勢力分野がモントリオールでは東欧7、北欧1と塗り替わることもありそうだそうなればこれまたショッキングなできごとである。
アフリカ大陸も、ミュンヘン時の6カ国を上廻る多数のエントリーが見込まれ、アメリカ大陸も、自大陸でのオリンピック開催だけに、各国とも張り切っておりアメリカ独走とはいくまい。

希望ある上位戦進出

世界女子選手権

日本が心労を重ねて手にした出場権。
組み合せは、内規にのっとり、前回の世界選手権(昭43、ユーゴ)の順位が大きな資料となり、日本は優勝候補の一角ルーマニアのほか名門チェコ、宿敵ノルウェーと同じ組になった。
井薫全日本女子監督は『ここまで来れば、どこと顔を合せても同じ。むしろ、いちばんよい所に入りこんだとも云えるだろう。
モントリオールオリンピックには、来年の3大陸代表決定戦という道が残されているが、それに甘えずなんとかこの大会でベストフォアに入れるよう努力したい』という。
井監督らコーチングスタッフの目算では、ルーマニアはともかくとして、チェコ、ノルウェー戦をモノにしようというもので、これはじゅう分可能性がある。
チェコとは過去2戦2敗（8－17、5－17）だが、これは10年前の話。最近のチェコの試合ぶりと日本のレベルアップを秤りにかければ互角とみてよい。
ノルウェーとは過去3戦1勝1分1敗(12－12、14－12、9－16）
世界選手権ではこれで3回つづけて対戦するもので、いささか因ねんじみてきた。
前回は、トライアルのオランダ国際で勝ちながら、本番で足をすくわれており、選手たちは、三たび目の対戦に、早くも闘志を燃やしていると伝えられる。
他の2組はすさまじいばかりの星のつぶしあいが予想できる。
地元ソ連が、惑星ポーランドと前回9位とはいえ巻き返しを狙う東ドイツにはさまれているC組はすごい。
大会は12月2日から13日までソ連のキエフ市を主会場として開かれるが、予選リーグは2日から5日まで。そのあと各組上位2カ国のベストシックスによる決勝リーグが7日から13日まで行われ、このうち上位4カ国に、来年のモントリオール・オリンピック出場権が与えられる。
予選リーグ各組3位による7～9位決定戦、同4位による10～12位決定戦は、7日から9日までに行われる予定だが、この件はまだ正式決定に至っていない。
なお、IHFは、本大会補欠国として西ドイツを決めている(杉)

米代陸代表はアメリカ

世界女子選手権アメリカ大陸代表決定戦・アメリカ×カナダの試合は3月、互いのホームコートで行われ、アメリカが1勝1分で代表と決まった。

①アメリカ 13（分）11 カナダ
②アメリカ 11―11 カナダ

合 織 糸 ・ 合 織 混 紡 糸

田村紡績株式会社

社 長 田　村　正　衛

四 日 市 市 東 茂 福 町 10 ― 17
TEL 0593―65―2156（代表）
郵便番号　5 1 2

ＡＨＦ問題新局面へ
ＩＨＦが規約廃棄を勧告

ＩＨＦ(国際ハンドボール連盟)は、４月17日付文書で、結成準備中のＡＨＦ（アジアハンドボール連盟）に対し、その規約などを廃棄するよう勧告した。

この文書は、ＡＨＦの事務所（本部）の籍が置かれているクウェート協会宛に送られたもので、同文書のコピーが、日本協会にも送られてきたことから明きらかになったものである。

ＩＨＦが、クウエート協会を通じ、ＡＨＦに対しこのような措置をとったのは、ＩＨＦはアジアを「近東」「極東」に分ける案を固め（＝本誌128号既報）、準備の進んでいるＡＨＦを承認しない方針を打ち出していたのだが、ＡＨＦが５月３日から５日までクウエートでＡＨＦ正式発足のための会議を招集したためである。

この会議に出席を呼びかける案内状は、３月20日本協会にも届いており、田村会長と荒川理事長はＩＨＦの動きとにらみあわせ４月19日の月例常務理事会で出席の諾否を協議するつもりでいたところ４月７日、ＩＨＦアジア地域選出理事・渡辺和美氏から「ＩＨＦは昨年10月の総会（イタリア）でＡＨＦ結成について反対しており、今回のクウエートでの会議に出席する必要はない」旨の文書（４月１日付）が届いた。

日本協会はこの指示の取扱いにかなりとまどいをみせたがともかく、当初の方針どおり、ＩＨＦのでかたを待つこととした。

ＩＨＦは、４月14日西ドイツで開いた理事会で、渡辺氏からの報告をまじえてこの問題を検討、その結果クウェート協会への文書発送になったようだ。これに対してクウエート協会は、４月21日、日本など各国に会議を10月18日に延期するとの電報を寄せた。

ＡＨＦをめぐるこの１カ月のめまぐるしい動きに日本協会は当惑しながらも、会議が約６カ月さきへ延ばされたことで一息つき、改めて検討するとしているが、ＡＨＦ問題が新たな局面を迎えることは必至、ますます復雑な様相を呈しそうだとのみかたが強い。

◇

ＩＨＦが、ＡＨＦを認めないのは、①発起国（本誌６頁参照）のうち中国など４カ国が未加盟国なこと②アジアの組織について別案（＝アジア二分案）を用意していることにあるとみられる。

この２点については、今春１月クウエートにヒョークベルグ会長リンケンバーガー事務総長などＩＨＦ首脳が招かれた時、クウエート協会にも当然伝えられていると思われるし、この場合に居合せた渡辺氏も、帰国後、東京でその旨を語っている。

にもかかわらず、５月にＡＨＦが発足会議を準備したことは、ＩＨＦをかなり〃刺激〃したようだ

ＡＨＦが案内状を何カ国に発送したかは詳らかではないが、消息通は当然、ＩＨＦ未加盟国にも送られたとみており、何がなんでも旗上げにこぎつけようとしたものだろう。

ＩＨＦ勧告のリアクションとして、一応、会議の日程をあとに延ばしたものの、ＡＨＦ結成を白紙に戻したわけではなく、むしろ雲行きはあやしくなったといえる。

ＩＨＦは、来年ポルトガルで開かれる総会に「近東」「極東(イスラエルを特別編入)」のアジア二分案を提出するといわれるが、そのような悠長なことでは問題をいっそう復雑にしてしまうとの懸念もあり、二分案に反対するムードが高められることも充分に考えられる。

日本協会内部にさえアジア二分案について「オリンピック、世界選手権などのアジア代表権が２になるならともかく、今のままでは意味がない」「イスラエルを暫定的にせよ極東に加えるのは混乱を招くだけ」といった批判がある。

また、地域（大陸別）組織にＩＨＦが介入することについても、反撥なしであっさり進むとは思われない。

イスラエルについては、ＩＨＦ筋も同国のヨーロッパ移行(復帰)を決断したようで、イスラエル自身もそれを望んでいると伝えられるが成り行きは予断を許さない。

なお、ＩＨＦが、廃棄を勧告したＡＨＦ規約は９条から成り、昨秋すでに、日本など各国が受けとった。

会長としてアル・アワド・アルサバハ氏(クウエート)、事務総長にシャド・アブルハッサン氏（パキスタン）も決まっている。

投書欄　明日への提言

実力別地域リーグを

前号の投書欄で寺内氏の意見を読んだが、なるほど一理あると思った。

たしかに、学生は学生界という殻の中に閉じこもりすぎているが、しかし、これは現行の各大会が、あまりにも種別にこだわりすぎているのも一因である

ブロック別の選手権が、国体につながり、その国体が学生を締め出していることの影響もあって学生—社会人（教員、クラブ、実業団）の交流は、現状ではかなり難しい。

といって、新たにオープンなブロック大会を新設することはいろいろの問題が生じるのである。

この問題を変えるためには、国内のシステムを根本から考えなおす〃革命〃が必要だと思う

私も大学ＯＢの一人だが、どうもこの頃、学生リーグという組織に疑問を抱くようになっている。

欧州の採っているような実力別の関東リーグ、関西リーグ……等が生まれるべき時期にきているのではないか。

ちなみにハンドボール狂の友人と編成した関東リーグは次のようなものだ。

(一部)三景、大崎電気、早大、中大、法大、千葉教員、日体大三陽商会。

(二部)明大、芝工大、三春台クラブ、茨城教員、日大、慶大、自衛隊勝田、セントラル自動車

【千葉市・石井健・会社員】

グラノリエルス、技巧的な攻守

実力示した王者・大同製鋼が1勝

日本・スペイン国際親善

スペインから初めて迎えた「バロンマノ・エレナ・グラノリエルス」（ユリア団長ら役員4、選手13名）との国際親善試合は、3月31日から4月6日まで全国5都市で5試合が行われた。

スペイン球界きっての名門グラノリエルス（今季スペインリーグ3位）は、4人のナショナルプレイヤーを中心に、これまで来日したパワーフルなヨーロッパチームとは趣きを異にした技巧的な攻守をみせ、3勝1分1敗の成績を残した。

日本側は、チャンピオン・大同製鋼（愛知）が充実のチーム力を存分に発揮、国際レベルにあることを改めて示したほか、各県推せんの単独チームも精いっぱいの善戦で、地元ファンの声援に応えた。グラノリエルスは4月8日午後3時5分羽田国際空港発のスイス航空機で帰国した。

このシリーズは、46年度から始められた〝新シーズン開幕国際試合〟の5回目としてのものだった。

熊本市商OBは引き分け

第1戦・熊本市商高OBとの試合は、3月31日午後6時2分から熊本市体育館で行われた。審判＝森豊夫、島田秀四、観衆＝二千

バロンマノ・グラノリエルス 22（12―8 / 10―14）22 熊本市商高OB
引き分け

後記

○……体力にまさるグラノリエルスは、サガリバイ、アペラドールを中心に柔軟なボディワークと速いパスワーク、素早い出足による速攻など巧妙な組織攻撃で前半優位に立ち、25分には8―5とリードした。

一方、熊本市商OBは、館内を埋めた母校関係者の応援を意識しすぎて硬さがのぞき、パスプレーも乱れ、後手にまわった。

○……しかし、後半に入ると、熊本も動きがスムーズになり、各地からはせ参じたメンバーも、さすが同窓、息のあったプレーで反撃松原の活躍で5分同点（11―11）としたあと、6分北村が初めて勝ち越し点をあげた。

グラノリエルスは態勢を立て直し、エース・サガリバイが豪放なジャンプシュートで連続3点、再び先行したが、熊本も上り調子となっただけに粘り、白熱の好試合となった。

○……後半18分19―19、勝負は終盤に持ちこまれたが、互いに3点づつを加えたあとは決め手を欠き決勝点をマークすることができなかった。

熊本は、松原、田上敬、新進・北村の得点力を活かした東、大宮田上豊らの巧妙なアシストで、前半終了間ぎわからは、むしろグラノリエルスを上廻るプレーをみせたが、やはり、相手もスペインきっての名門といわれるたくましさがあり、勝利を握るまでにはいかなかった。

	【熊本市商高OB】	得
GK	柳川(大同製鋼)	0
GK	下里(熊本トヨタ)	0
FP	大宮(熊本教職員)	0
FP	東(大崎電気)	2
FP	田上豊(鹿児島教員)	0
FP	松原(大同製鋼)	9
FP	田上敬(本田技研)	6
FP	柳本(佐賀教員)	0
FP	竹下(熊本トヨタ)	0
FP	北村(大同製鋼)	5
FP	松本(日体大)	0
FP	清崎(大同製鋼)	0
	7MT (2)	22

	【グラノリエルス】	得
GK	パゴアーガ	0
GK	クロス	0
FP	カラブイグ	2
FP	バニヨス	5
FP	フオントウ	2
FP	サガルサス	0
FP	サガリバイ	8
FP	アペラドール	3
FP	ポンス	0
FP	ゴメス	2
FP	ベーラ	0
FP	ゴンザレス	0
	7MT (5)	22

▽交代選手【グ】FPモーラ得0、

第1戦・前半24分，松原の鮮やかな速攻決まる。
（熊本日日新聞社・提供）

グ軍、反撃実らず

第2戦・大同製鋼（愛知）との試合は、4月2日午後4時から名古屋市体育館で行われた。審判＝稲石三二、西川勤也、観衆＝二千

大同製鋼 17（11―6 / 6―9）15 バロンマノ・グラノリエルス

	【大同】	得
GK	柳川兄	0
GK	倉谷	0
FP	野田	1
FP	中井	5
FP	花輪	5
FP	松原	4
FP	柳川弟	1
FP	藤中	1
FP	北村	0
FP	石川	0
FP	守田	0
FP	更谷	0
	7MT (1)	17

	【グラノリエルス】	得
GK	パゴアーガ	0
GK	クロス	0
FP	サガルサス	0
FP	アペラドール	2
FP	バーニョス	2
FP	サガリバイ	3
FP	カラブイグ	3
FP	ゴメス	0
FP	ポンス	2
FP	ベーラ	1
FP	ゴンザレス	0
FP	フォントウ	2
	7MT (0)	15

▽交代選手【グ】FPモーラ得0

後記　改田智洋（朝日新聞名古屋本社運動部）

○……2点差。だが得点差以上の力があった。

このため試合そのもののレベルは国内の「四強」同士の対戦と比べると低いし、見ごたえもなかった。しかし名古屋市体育館を八分通り埋めた約二千人の観衆は試合

終了直前に1点を争ったゲームにわいた。

大同は守備の要（かなめ）加藤の引退でチーム力、特にディフェンスに不安があるのではないかと思われた。しかし、スタートメンバーの顔ぶれは国内単独チームの最強にふさわしい豪華なもので、立ち上りからゾーンプレス的な当りの激しいディフェンスをしいてグラノリエルスをまったく寄せつけなかった。この好ディフェンスが攻撃にもつながり、前半の中盤で力の差がわかった。

○……開始1分ベテラン野田が先制点をあげ、続いて花輪—野田とパスが渡ったあと松原があざやかなポストプレー。さらに中井が中央、右45度からミドルシュート。またグラノリエルスのサイドから中央へのパスを中井がカットして単独ドリブルシュートと一方的に攻めまくった。立ち上り14分で7—1。

バロンマノ・グラノリエルス来日選手団

- 団　長　ミグエル・ユリア（38才）工業技師
- 渉　外　ホセ・グラウ（51）会社経営者（グラノリエルス後援会長）
- 監　督　ミグエル・ロカ・マス（39）プロ・コーチ
- マネジャー　アントニオ・ブランシャルト（43）洋服商

	氏名	年齢	身長	体重	職業	得点
GK	○ホセ・M・パゴアーガ	(22才)	180cm	80kg	学生（経）	・
	ファン・クロス	(22)	170	68	学生（経）	・
FP	ビセンテ・カラブイグ	(21)	173	78	公務員	⑧
	フランシスコ・バニョス	(23)	172	65	電気技師	⑬
	ラモン・フォントウ	(21)	181	77	学生（法）	⑧
	○ホセ・L・サガリバイ	(22)	184	86	学生（医）	㉑
	○ミグエル・A・アペラドール	(25)	183	85	学生（経）	⑱
	フランシスコ・ポンス	(23)	173	68	公務員	④
	○ホセ・M・ゴメス	(23)	184	77	電気技師	⑱
	ホセ・M・ベーラ	(22)	169	61	学生（工）	⑤
	カルロス・モーラ	(20)	174	70	学生（商）	②
	ラハエル・ゴンザレス	(20)	183	81	学生（経）	①
	ホセ・A・サガルサス	(18)	180	72	学生（経）	・

- ○印はスペインナショナルプレイヤー
- サガリバイは昨春の世界選手権，今春の世界学生代表
- パゴアーガは今春の世界学生代表
- カラブイグはスペインジュニアナショナル
- 右欄○内数字は日本での得点（5試合）

グラノリエルスはこの間ベーラが点をあげただけ。つまらないパスミスはするし、7MTを失敗するなど、いかに大同のディフェンスにとまどったとはいえ力の差はあきらか。このままのペースで終ると国際試合という感じがなくなるとさえ思われたほどだった。

だが、「突然試合開催が決ったためほとんどコンビネーションの練習をやらず、ぶっつけの出場だった」（中浜監督）のためか前半の中盤で大同のペースが落ちて差はつまった。

○……後半は大同スタートからが野田をベンチへ、さらに好守を見せていたGK柳川兄まで途中で交代させるなどガタっと戦力を落した。さらに選手にも「組みやすい相手」の気持が出たのか立ち上りほどのきびしいプレーが出なくなった。このため差を縮められ、終了55秒前にバーニョスに7MTを決められていれば得点の上では引き分けになるところだった。

グラノリエルスには四人のスペイン・ナショナルプレーヤーがいるそうだが、この試合を見る限りでは力強さはなかった。第一戦の時に比べると「目の色をかえて向ってきた」と熊本大会に出た選手たちはいうが、それにしては試合の組みたて方に工夫がない感じ。サガリバイの中距離シュートが目についただけだった。

ロカ監督の話　大同は聞いていた以上にいいチームだった。プレーが正確だしスピードがある。藤中、中井、花輪は特に秀れていたと思う。しかし、我々のベストメンバーがベストコンディションで戦ったら負けはしない。大同がスペインリーグに参加したら3〜5位ぐらいだろう。

大応援団来日は肩すかし

□……「50人近い応援団も同行しますからよろしく」。来日直前のグラノリエルスからの連絡で日本協会や、主管の地方協会は大慌てだったが、いざ到着の段になると話半分どころか8人がついてきただけ、それも東京見物が主の観光団。賑やかなスペイン流応援をみることはできなかった。「選手」として来たハズのマシップさんが熊本への乗り継ぎ直前、観光団に〝移籍〟する一幕もあった。

学生選手が9人

□……昭和31年の西ドイツナショナル（11人制）にはじまって、グラノリエルスはヨーロッパから来日した15番目のチーム（男13、女2）。

これまでのチームの選手は職業がさまざまだったが、グラノリエルスは13人のうち9人が学生。

過去の最高は、ユーゴナショナル（48年9月）の6人で、スペイン球界の主流が学生であることを裏付けた。

岐阜教員・蒲郡クの善戦空し

第3戦・岐阜教員との試合は4月3日午後5時30分から岐阜県民体育館で行われた。審判＝岡田重博、林邦隆、観衆＝千

バロンマノ・グラノリエルス 19（10—5、9—8）13 岐阜教員

得	【岐阜】	
0	堀江	GK
0	田中	GK
0	福田	FP
0	村瀬	FP
0	神谷	FP
1	鈴木	FP
6	細江	FP
2	川瀬	FP
1	中島	FP
0	原	FP
2	工藤	FP
1	石黒	FP
13	7MT（0）	

得	【グラノリエルス】	
0	クロス	GK
0	パゴアーガ	GK
1	カラブイグ	FP
2	アペラドール	FP
1	モーラ	FP
6	サガリバイ	FP
1	バニョス	FP
2	フオントウ	FP
1	ポンス	FP
4	ゴメス	FP
1	ベーラ	FP
0	ゴンザレス	FP
19	7MT（1）	

▽交代選手【グ】FPサガルサス得0

後記

立ちあがり岐阜教員はグラノリエルスのゆさぶりによくつき、10分2—2と互角の戦況。

しかし、そのあとは次第に相手の地力に押しこまれ、20分を過ぎてからは、サガリバイの力感あふれたシュートなどに連続失点、ダブルスコアとなった。

○……後半、グラノリエルスは6分12—6とすると、主力を休ませはじめ、このスキをついては岐阜は鈴木、細江、川瀬らがゴール、13分に9—12と差を詰めた。

余祐のあるグラノリエルスは、15分すぎから再びゴメス、フオントウの巧妙な攻撃で岐阜のデフェンスを崩し、25分18—10と大勢を決めた。

○……岐阜は、シーズン初めのせいか、チームプレーがもう一つまとまらず、特にディフェンスにまわると、もろさが目立った。

7ゴールをあげた細江をはじめ攻撃力は、まずまずだっただけにこの乱れは惜しまれる。

第3戦・後半18分フオントウの中央突破でグラノリエルスは14点目をあげた。（岐阜日日新聞社・提供）

第4戦・蒲郡クラブ（愛知）との試合は、4月5日午後5時30分から愛知・蒲郡市民体育館で行われた。審判＝稲石三二、鈴木四郎、観衆＝千五百

パロンマノ・グラノリエルス 18（12—5、6—2）7 蒲郡ク

得	【蒲郡】	
0	竹内典	GK
0	榊原	GK
5	小林	FP
0	福井	FP
0	山内	FP
1	平野正	FP
0	尾崎	FP
0	大羽	FP
0	遠山	FP
1	鈴木	FP
0	平野秀	FP
0	竹内正	FP
7	7MT（0）	

得	【グラノリエルス】	
0	パゴアーガ	GK
0	クロス	GK
6	サガリバイ	FP
2	アペラドール	FP
0	カラブイグ	FP
0	サガルサス	FP
3	バニョス	FP
3	ゴメス	FP
0	ゴンザレス	FP
1	フオントウ	FP
2	ベーラ	FP
1	モーラ	FP
18	7MT（3）	

▽交代選手【グ】FPポンス得0【蒲】FP井上、松山、林＝いずれも得0

後記

初めて国際試合を行う蒲郡クは元気のよい飛び出しで、2分小林（芝浦工大出）のゴールで幸先のよい先制点。

そのあと、グラノリエルスの体力を利した攻撃を受けながらもディフェンスの早いつぶしで15分まで3失点に持ちこたえ、18分再び小林が好シュート、2—3と粘った。

○……しかし、蒲郡ク守備陣が、この日まで17得点のサガリバイのマークにあまりこだわったため、同じスペインナショナルのアペラドールに狙い打ちを許し、20分ミドル、28分7MTで5—2とされた。5点のうち4点がアペラドールのあげたもの。

グラノリエルスはそのあとサガリバイが持ちこんで6—2とした。

○……後半、蒲郡クは1分平野正の得点で反撃の足がかりをつかむかにみえたが、グラノリエルスは動きの落ちた相手ディフェンスを突いて加点、10分9—3と試合のさきが見えた。

それでも蒲郡クは、試合を捨てず、小林の連続3ゴールや、鈴木（ヤング全日本、名城大）の得点で20分には7—12とするなど粘ったが、グラノリエルスも残り5分となるや一気にスパート、たてつづけに5点を奪い、地力のあると

ころを見せつけた。

○……グラノリエルスは、すご味こそないが、バニヨス、アペラドールゴメスら展開力に秀れた選手が主軸となって、オーソドックスな攻守を見せ、日本チームのプレーに馴れたこともあって、余裕のある試合ぶりだった。

ジュニアからも抜てき

□……来日13選手のうちゴンザレスとモーラの2人は、直前までメンバーに加えられていなかったがプラット（元スペインナショナル）が父親の急病、ラガが試験のため来られなくなり、急きょジュニアから抜てきされて参加したもの。

それだけに試合で〝出番〟がまわると、来シーズン一軍ベンチ入りのチャンスを逃すまいと一生懸命なプレーを見せた。

ちなみに、グラノリエルスのジュニアチーム（20才〜18才）は、一軍同よう、スペインきっての強豪で、過去9回ジュニアタイトルを獲得している。

なお、ホープといわれるバイ（19才、187㎝）は、スペインジュニアナショナルの南米遠征に参加したため、日本には来なかった。

□……グラノリエルスは、ハンドボール専門のクラブで、10才以上の会員が500人。技術、年令などで15のチームを持っている。

来日したのは、いわゆる一軍でスペインリーグの古豪としても名のある存在。

ホームコートは二千人収容のスタンドを持ち、つねに千五百人から二千人のファンを動員している

ただし、ユリア団長は、フロアやスタンドははるかに日本の体育館のほうがいいといっていた。

サガリバイ選手訪問

スペインで〝グラッソ・デ・オロ(黄金の腕)〟と呼ばれる男184㎝、86K、22才。FPの平均身長178㎝という来日チームのなかでは一際大きい。

長くのばした髭、温厚なものごし、スポーツマンというより哲学者タイプ。それもそのハズ、国立バルセロナ大学の医学部で精神科の学位を目指している。

――学業とスポーツの両立、どうしてます？

「たしかに難しい問題です。かなり勉強しないといけません。といってハンドボールも捨て切れませんし……。でも今のところどうにかやってます」

どうにかどころか、昨春の世界選手権、今春の世界学生の代表になっている。

「勉強はついこの間から、ハンドボールは16才の時から。だから当然ですよ」と笑った。

ともかくハンドボールが好きだグラノリエルスのほか医学部ハンドボールチームのメンバーでもある。

――大学だけの試合もあるのか

「他の大学とはしない。学内の他学部チームとの対抗戦が主なもの」

同僚のパゴアーガは、同じ大学の経済学部生だが、彼はグラノリエルスだけ。

それほど好きなら、いつまでもつづけるだろうと思ったら、予想に反して、

「あと2年で辞めます」ときっぱり。何故？

「ちょうど、大学を卒業する時だからです。それから、まだまだ覚えることが沢山ある……」

話題をかえて。日本でもっとも印象に残ったのは？

「京都のお寺や庭、すばらしかった。あれがニッポンでしょう。東京も名古屋も、その他の都市もヨーロッパの都会と違はなすぎる」

南禅寺（京都）で食べた湯豆腐の味も気にいったし、蒲郡でふとんに寝たのも「嬉しかった」。

さらに話題をかえて。スペインのモントリオール対策は？

「一生懸命だが、おそらくヨーロッパ予選を通過できない。」

――どうして？

「共産圏諸国が強すぎる。それに今や190㎝以上の選手を揃えないとダメ。2m選手がザラに居るようになったし……。これは日本も同じ悩みでしたね。」

スペインリーグで彼は今シーズン100ゴール（22試合）を叩き出した。豪快なジャンプシュートは、スペインナショナルに欠かせぬものだろう。

――君が頑張ればなんとかなるのではないか

「とんでもない。第一、スペインには僕以上の選手が沢山居る。それに勉強もきびしくなってくる。日本遠征はすごく楽しかったが、このブランクを取り戻すのが大変だ」

最後はまた、学生選手の悩みに話が戻った。

〝黄金の腕〟は、やがてユニホームよりも、白衣の袖に通される日が多くなることだろう。

（この企画の通訳に植草五郎氏をわずらわせました）

石鹸会社がスポンサー　グラノリエルス

▽……一九五一年(昭26)にクラブ創設。4年後の会長杯争奪戦で初の全国優勝、それからというものスペイン球界はグラノリエルスを中心に回転してきたといってよい。

スペインリーグのタイトルを握ること14回、カップと称される全国大会やカタリナ地域選手権、ジュニア選手権などを加えたら40回近い栄光に輝いている。

▽……皮肉なことに今シーズン(スペインリーグ)は22戦15勝1分6敗〜総得点414、総失点358〜で3位。ロカ監督は「選手の入れ替えが激しく、チーム力が安定しないままシーズンを迎えたからだ」と残念そう。

スペインの人気スポーツはなんといってもサッカーだが、バロンマノ(ハンドボール)もなかなか。

とりわけ、スペインリーグ所属の12クラブは、本拠地のファンに応えるため、有力選手集めにやっきとなっており、主力級の引き抜きも多いらしい。

▽……4、5年前から外国選手の迎え入れも盛んで、日本にもおなじみのレフラー(イスラエル)がCF・バルセロナにいるほか、AT・マドリッドにはアンクレ(ノルウェー)、サンアントニオにはゴラン(ユーゴ)といった具合、ユーゴのGKゾルコ(昭48来日)も、今季後半、アラッテHCに加ったそうだ。

グラノリエルスのエース、サガリバイも、3年前まではバハルール・マドリッド所属。

▽……こうした補強の背景には地元の熱狂もあるが、もう一つ強ければ強いほど、有力なスポンサーがつくことがある。

グラノリエルスは数年前からエレナという石鹸会社の後援をうけており、日本でも、その社名を大きく染めだしたユニホームでプレーしていた。

チームや選手は、広告媒体であり、「強さ」が望まれるわけである。

▽……エレナから、どの程度の援助(一シーズン)を受けているのかは、誰も答えてくれなかったが、バンコク(2泊)—ホンコン(1泊)—日本と廻った今回の旅費の大半は、同社が面倒みているようだし、相当な額だろう。

監督のロカ氏はシーズン契約のプロコーチで、グラノリエルスを卒いてすでに10年になるという。

また、選手にも、技倆に応じたいくばくかの「ユニホーム洗濯代」が支払れている様子だ。(S)

遅かった静農OBの追撃

第5戦(最終戦)・静岡農高OBクラブとの試合は、4月6日午後3時35分から静岡県営草薙体育館で行われた。審判=大橋昭重、鈴木城、観衆=二千二百

バロンマノ・グラノリエルス 24 (11—11, 13—7) 18 静岡農高OBク

	【静岡農高OBク】	得
GK	杉山芳(静農OBク)	0
GK	堀池(静農OBク)	0
FP	森(静農OBク)	0
FP	松永(静農OBク)	2
FP	岩科(静農OBク)	2
FP	小林(静岡教員団)	9
FP	入山(静岡教員団)	0
FP	細沢(静岡教員団)	3
FP	久保田(静農OBク)	2
FP	水野(学生)	0
FP	杉山年(静農OBク)	0
FP	片平(静農OBク)	0
	7MT (0)	18

	【グラノリエルス】	得
GK	パゴアーガ	0
GK	クロス	0
FP	アペラドール	5
FP	サガリバイ	2
FP	サガルサス	0
FP	フォントウ	1
FP	ゴメス	9
FP	ベーラ	1
FP	バーニョス	2
FP	カラブイグ	2
FP	ゴンザレス	1
FP	ポンス	1
	7MT (2)	24

▽交代選手【グ】FPモーラ得0【静】FP小泉(静農OBク)、保崎(静農OBク)ともに得0

後記

杉山　茂
(NHK運動部)

○……グラノリエルスは日本チームのプレーに馴れた。中央でサガリバイ、アペラドール、ゴメスの長身選手が守りの壁を築き、トップの小兵・ベーラが激しく動いて相手の攻撃テンポを崩し、マイボールを得ると一気の逆襲を仕掛けた。

立ちあがり、かたさのみられた静農OEは、相手のペースにすっかり乗ぜられてしまい1分7MTで先取点を奪われたあと、アペラドールのロング、ゴメスのサイドと速攻、ベーラ、バーニョスのポストプレーなどで9分8—0と一方的な経過になった。

○……この間、静農OBもいく度か好機をつかんだのだが、GKパゴアーガの好判断にあってゴールをあげることができず、リバウンドを拾った久保田の巧技で最初の得点を印したのは12分。

それでもこの1点で、どうにか攻撃のリズムが整った。相手ディフェンスが腰高なのを見破った小林、細沢、松永らのアンダーシュートで遅ればせながら反撃に出たが、グラノリエルスも攻撃の手をゆるめず点差はつまらなかった。

○……後半になると、グラノリエルスは、前半のような多彩な射ち分けをやめ、サカリバイにボールを集めロングシュートを多発する策戦をとった。

静農OBディフェンスが、やや下り気味だったため、この積極策は当り、9分までに連続4ゴール17—7と大差がついた。

○……これで終ってしまったらまったく味気なかったろうが、グラノリエルスがGKをクロスに代えたこともあって、静農OBは小林—細沢のコンビ攻撃でまたたく間に点差を詰め、11分FTから長身の岩科が豪快なシュートで13—17と追いあげ、がぜん試合を盛りあげた。

試合後、ロカ監督は「10点差をつけたあと、たてつづけに6点を奪われたのは初めてだ」と、静農OBの粘りを讃えたが、いかになんでも、序盤の傷口は大きく、しかも17分15—19から疲れがのぞいて、三たびグラノリエルスの集中攻撃を浴びて20分22—15となり、大勢が決まった。GK堀池信が好調だっただけに後半にみせた静農OBの攻撃が、前半に発揮されていればと惜しまれる。

新シーズン開幕　国際試合

①昭46.4
グンメルスバッハ(西ドイツ)
〜日本側1勝5敗〜

②昭47.4
GW・ダンケルセン(西ドイツ)
〜日本側1勝2敗〜

③昭48.4
FA・ギョッピンゲン(西ドイツ)
〜日本側2勝1敗〜

④昭49.4
スタジオン・IF(デンマーク)
〜日本側1勝4敗〜

HONDAは無公害時代のパイオニア!!
HONDA

厚く、深い底刻み、
フット・ワーク優先の
合理シューズ

日本実業団リーグ・女子展望

重機、ビクターにからむ立石電機

全日本実業団選手権（第16回）をかけた日本実業団リーグの開幕がせまった。

昨年、男子6チームによる各地転戦のリーグを試みた主催者の全日本実連は、地方ファンの好評を得、日本協会もこの姿勢を支持したことから、今年はさらに男子は2チームを加え、女子も8チームでサーキット化に踏み切った。

男子は5月31日名古屋と徳山でスタート、4週8日間9都市で熱戦を展開。

女子は一足さきに5月23日熊本と栃木で火ぶたを切り4週9日間7都市で激突する。

本誌ではファンの観戦手引きとして、男女リーグのみどころや話題を、事情に詳しいライターに話しあってもらった。

主戦健在の東京重機

〃先にスタートする女子から話をはじめよう。まず、新陳代謝が激しいので、昨年限りで第一線を退いた主な選手をあげて下さい。〃

〃思ったより少ない。ブラザーの藤浪、鈴木、立石の植原、大崎の岩井、日立は富田川、鈴木昌、土屋、ムネカタが中村、続橋、ビクターが阿部といったところ〃

〃チャンピオンの重機は、3人の新人を加えて、主戦はそのまま〃

〃去年は本当によく戦った。ビクター有利とみられたシーズンだが実業団、全日本の二冠を手にしたのだからね〃

〃特に、全日本は8人で戦ったのだからすごい。GK三紙の緊張など、気の毒なほどだった。〃

〃控えが居ないのだからね。FPでは古佐原(世界選手権候補)―折口のコンビが4人分近く動く。それに菊地(世界選手権候補)が伸びているし、菊地に刺激されて村上も積極的だ〃

〃市川の存在も大きいだろう。女子には、こうしたタイプの選手が欠かせない。

マイナスな材料は見当らない〃

〃カムバックを噂されていた牧野（第4、第5回世界選手権代表）はどうなる〃

〃ヒザの手術の経過はよいようだが近藤監督はエントリーするつもりがない〃

ビクター、立石、若手が成長

〃追うというより肩を並べるのはビクター、立石電機かな〃

〃去年のビクターは、シーズン初め三冠説もあったほどだが、茨城国体をあまりにも意識しすぎた。

今年は、打倒重機一本にしぼるだろうから、この激突は面白い〃

〃立石も食いこんでくるだろう。三タイトル（リーグ、国体、全日本総合）を三チームが分けあうことも考えられる〃

〃全日本総合（12月10～14日・東京）は、世界選手権（12月3～14日・キエフ）とぶつかるから、今年はちょっと格落ちになる〃

〃なるほど。このリーグが今シーズンの焦点なわけだね。ビクターは額賀、加藤（ともに世界選手権候補）の成長に蓮見、髙野（世界選手権候補）。GKも渡辺、鈴木（ともに世界選手権候補）の2枚で万全だ〃

〃FPでベテランの池田、新鋭の穂積（世界選手権候補）を落とせない。池田は監督夫人という異色の存在。劣えるどころか、ますますプレーに味(あじ)がでてきている。穂積もナショナルに加って自信をつけた〃

〃立石はすっかり落ち着いた。ともかく去年は会社が代ったうえに大洋デパート時代の垂水、米小原(GK)という名手が脱け、新チームといってもよいほど。多くを望むほうがムリだった〃

〃島田、山下（ともに世界選手選候補）がチームを引っぱれるようになったし、蔵田（世界選手権候補）もいちだんと迫力を増してるGKは和田（世界選手権候補）で安心だ〃

〃加子崎、紀野(世界選手権候補)も地力がついている。それに注目の新人・池渕(大谷)が居る。160cm 57Kとけして大きくはないが、インターハイ優勝、国体(全大阪)優勝の原動力。インターハイでは5試合で35点、自校総得点（53）の67%だ。〃

〃井監督は新人の使いかたが巧いから、期待できる〃

軽視できぬ田村、ブラザー

〃その他の5チームに優勝のチャンスはないだろうか〃

〃田村紡がメンバー不動だけに、3強も軽視できないと思う。三毛がいぜん元気だし松下、河田（ともに世界選手権候補）の進境がいちぢるしい。

横山、和久井、GK久保（世界選手権候補）らは地味だが安定している。第3日のビクター戦が、このチームの消長を決めそうだ〃

〃日立栃木はどう〃

〃プレーが、ちょっと手詰まりになっている。鈴井を要に山井、小根沢、桜庭、晴山、GK粂谷らチーム力は見劣りしないのだから、何かキッカケをつかめば浮上できる〃

〃同じことはブラザー工業にも云える〃

〃云える、どころか、いいつづけられすぎた。〃

〃原川、宮崎、小森、国府田それに2年目の中川。オープニングの熊本シリーズで立石、重機のどちらか一つを食うようだと、がぜんダークホースだ〃

〃ま正面からぶつかっても、上位陣と互角の戦力があるだけに、奮起して欲しい〃

選手名簿

・チーム名上の○内数字は49年度字全日本実業団選手権順位

①東京重機工業(東京) 部長・山岡建夫、監督・近藤金博、

⑤大崎電気工業(埼玉) 部長・辻本正義、監督・竹野奉昭、コーチ・谷口俊郎、マネ・籏野俊彦、(選手)GK西村、中島、FP席定長谷川、深堀、大場、永吉、内野杉尾〈新人〉FP中村三千代（佐世保女

まとまっている大崎

〝大崎電気と東北ムネカタは、今年も苦しそうだね〟

〝大崎は大場（世界選手権候補）席定、深堀、内野、長谷川、杉尾GK西村とまとまっているが、往年の迫力がない。〟

〝かつてのこのチームは、強気な選手を揃え、それをチームカラーにしていたが、その再現をいつまでも求めているようでは拙い〟

〝名門だけに一暴れを望んでおこう〟

〝ムネカタは、田口監督の話だと日頃、競争相手に恵まれぬため、なかなかチーム力を引きあげられないらしいが、好選手を揃えているね〟

〝地味だけどいいチームだ。有賀（世界選手権候補）をはじめ、鈴木、郷、後藤、遠藤で、どこまで食い下るか。全試合、ビジター（遠征）というのも辛いだろう。〟

〝リーグの発展は、上位陣の実力もさることながら、いわゆるBクラス勢が、有力チームとの差をどこまで詰めるか、のほうが大きな要素になる〟

〝初のサーキット。調整の難しい女子だけに一波乱はあろうが、優勝は重機、ビクターに立石がからむ三つ巴とみてよさそうだ〟

〝半歩遅れて田村ダークホースにブラザーとしたい〟

〝池渕（立石）以外に目立つ即戦力は〟

〝横山（重機）、染谷（日本ビクター）鈴木栄（ムネカタ）山中（ブラザー）あたりではないか

　しかし、社会人になってやっと二カ月で第一線というのは難しく、むしろ穂積（ビクター）紀野（立石）、河田（田村紡）、中川（ブラザー）、晴山（日立）らの「2年生」に注目したい〟

〝最近、いわゆるベテランが永くコートに残るようになったのも嬉しいね〟

〝池田（ビクター）を筆頭に、三毛（田村紡）、島田（立石）、古佐原（重機）、鈴井（日立）など……〟

〝外国選手に比べると、この人たちもけしてベテランとはいえないが、以前だと世界選手権を1回経験すると〝勇退〟というケースが圧倒的だったから、この傾向は喜んでいいだろう〟

〝各監督も、ベテランの使いかたに工夫がみえる。

　これまでは、新しい力、新しい力の繰り返しで、キャリアのある選手を、老けこむ前に押し出してしまう感じだった〟

〝ようやく、そのマイナスに気がついたわけだな〟

〝女子もオリンピック採用で、トップ層の充実が急がれる。

　男子とちがい、実業団が女子球界の総てといってよいのだからこのリーグの内容が、そのままナショナルに影響を及ぼしてくる。

　上位戦は、ヨーロッパの一流リーグにもヒケをとらないと思うし是非、成果をあげてもらいたい〟

〝その意味では、男子リーグより興味深いね〟

＝男子展望は次頁＝

日本実業団リーグ・女子日程

【第１週】
5月23日（熊本）重機―大崎　立石―ブラザー
　　　　（栃木）ビクター―日立　田村―ムネカタ
5月24日（熊本）大崎―立石　ブラザー―重機
　　　　（栃木）日立―田村　ムネカタ―ビクター
5月25日（熊本）ブラザー―大崎　立石―重機
　　　　（栃木）ビクター―田村　日立―ムネカタ

【第２週】
5月31日（名古屋）※ビクター―ブラザー　ムネカタ―立石
6月1日（名古屋）※ビクター―立石　ブラザー―ムネカタ

【第３週】
6月7日（東京地区）※大崎―日立　重機―田村
6月8日（東京地区）※田村―大崎　日立―重機

【第４週】
6月14日（岐阜）※大崎―ビクター　重機―ムネカタ
　　　　（京都）※ブラザー―田村　日立―立石
6月15日（四日市）※ムネカタ―大崎　立石―田村
　　　　（名古屋）※重機―ビクター　ブラザー―日立

※印はこのほかに男子の試合あり

（選手）GK三紙、FP古佐原、市川、菊地、折口、村上、町田、田中

（新人）FP横山裕美子（秋田和洋女、166cm）寺田美津子（科田和洋女、166）、山口アツ子（大曲農、166cm）

②日本ビクター（茨城）部長・富田悟、監督・池田鉄哉、コーチ・池田二三恵、マネ・笹沼美代子

（選手）GK鈴木、渡辺、FP蓮見額賀、高野、加藤、小島、穂積、斉藤、滝本、池田

（新人）FP染谷保子（昭和学院、641cm）

③立石電機山鹿（熊本）、部長・浅野悦、監督・井薫、マネ・長田玲子

（選手）GK和田、森山、FP島田蔵田、加子崎、山下、篠田、石井平下、林、紀野

（新人）GK丸山かよ子（熊本女商166cm）、FP山本由香（神戸商、164cm）、池渕澄江（大谷、160cm）、白木三智子（岩国商、150cm）

④田村紡績（三重）、部長・小川賢治、監督・鈴木義男

（選手）GK久保、山本、FP三毛沖、横山、和久井、金田、松下、鈴木、河田、林、笠、若田、平田

（新人）なし

159cm）、吉田留美子（岩手女、171cm）、工藤淑子（岩手女、160cm）

⑥日立栃木（栃木）部長・桑名照雄、監督・伊藤宏幸

（選手）GK粂谷、高橋、本城、FP鈴井、山井、田村、小根沢、桜庭、鈴木、晴山、小山、大岩、向井、藤田、大金

（新人）FP橋本恵美（広島一女商170cm）、荒木利子（結城二、157cm）吉田良子（古河二、165cm）

⑦東北ムネカタ（福島）部長・平川憲甫、監督・田口侑義、マネ藁谷和江

（選手）GK藁谷、熱海、FP後藤遠藤、有賀、細谷、鈴木郁、清水本郷、郷、佐藤、近内

（新人）FP鈴木英子（福島石川高165cm）、小針和子（福島石川高、162cm）

⑧ブラザー工業（愛知）部長・早川一雄、監督・白神邦雄、マネ日高さかえ

（選手）GK井戸田、山本、FP原川、宮崎、小森、藤井、国府田、佐々木、山口、宮平、中川

（新人）GK浅谷良子（国分実業、164cm）、FP楠石かずみ（粉河、171cm）、山中さゆり（三本松、162cm）、木下順子（高知中芸、158cm）時田志津江（高蔵、153cm）、日高さかえ（市邮学園、151cm）

日本実業団リーグ・男子展望

大同製鋼、野望（3年連続3冠）へのスタート

〃サーキット化2年目、各チームとも、去年の経験でコンディションづくりにも研究のあとを示すだろうから、好内容が期待できる〃

〃加盟チームが二つ増えたのも影響がでるだろう〃

〃そうだ。しかも、新参の両チームは、実力があるから、もつれる可能性は充分〃

〃しかし、優勝を争うとなると、大同、湧永、三景、本田の4チームにしぼられるのではないか〃

〃異論はない。大崎もだいぶ復調してきたが、王座カムバックとまではいくまい〃

〃大同は、3年連続3冠王というとてつもない「野望」をもっているが、そのためには、まず、このリーグに勝たなくてはならない。

ここで勝てば、70から80％、その夢がかなうと思う〃

〃いぶし銀の加藤が抜けたが、そのほかの主力不動というのは好材料だし、藤中、中井（ともにオリンピック候補）がいっそう円熟してきているからね〃

〃この二人のプレーは、まったく相手にとって脅威だ。

いつも試合を終って、スコアカードをみると、けしてこの二人は大量点をマークしていない。ところが、試合中は、ほとんど、この二人の動きに目を追はされている〃

〃記者席で見ていてもそうなのだから、相手チームはなおのことだろう〃

〃そうしておいて、花輪、松原、柳川弟（いずれもオリンピック候補）がスパッと決める。布陣としては最高だ〃

〃野田も要所は出るのだろう？〃

〃日本協会の安藤審判部長が面白いことを云ってた。以前の野田は強引に突破して、自分で持ちこんでたが、最近はマークをウイングに引きつけておいて、フォロアーにパスするようなプレーもみせる。

守る側にしてみれば、むしろやりにくくなったろうって〃

〃なるほど。そうなると大同はますます万全だ。中井を要のディフェンスは定評があるし――〃

〃中浜監督は、点をとるより点をとられないチームを目指している。

茨城国体決勝で、湧永薬品を前半完封したようなのが理想だ〃

〃恐しい話だね〃

〃GK柳川兄も固いし、北村、中本の若手も使える。史上最強チームの名を不動にしそうだ〃

力の本田、理詰めの湧永

〃他のチームはつけこむスキがないだろうか〃

〃波に乗った時の本田技研が面白い。佐藤、新実（ともにオリンピック候補）が元気だし、勝田、田上、柳、長谷川らの巧者と多彩だ〃

〃喜井（日体大）、金子（日大）と技と力のある新人を加え、顔ぶれでは大同に劣らない。しかし、相変らず安定感に乏しいと思うのだが〃

〃調子づかせたら重戦車なみの迫力だが、裏目になると、という不安はぬぐいさられていない〃

〃湧永の理詰めな戦力が買われるのと対照的だ〃

〃ここは津川、穂積（ともにオリンピック候補）がよくなっている。

津川は4月のビッグフォアの時相手選手と激突してうなるほど苦しみながら、立ちあがってプレーをつづけた。この斗志、花が咲くと思うな〃

〃髙橋、戸田、森などという実力派は型にはまったら、いぜん光る存在だからね。木野（オリンピック候補）はどう？〃

〃彼も、もう29才だ〃

選手名簿

・チーム名上の○内数字は昨年順位

・選手名下の○内数字は昨年の得点（本誌調べ）

①大同製鋼（愛知）部長・畔柳藤男、監督・中浜大輔、コーチ・野田清、マネ・守田宜生

（選手）GK柳川兄、倉谷　FP野田⑧、藤中⑩、中井⑪、松原㉑、石川①、花輪㉕、北村①、守田④、更谷、柳川弟㉓、桐山、中本、清崎、小野

（新人）FP大原真造（京都産大176cm）、道倉春利（幡多農、175cm）、浦田勝之（熊本一工、174cm）、有田和男（東海大二高、182cm）

（注）このほか8選手が新入社しているが、今回のリーグにはエントリーされない。なお、大同製鋼は今季から「大同製鋼高蔵」（愛知）を新発足させる予定。

②湧永薬品（大阪）部長・湧永儀助、監督・村中明朗、コーチ・市原則之、マネ・松井正敏

（選手）GK今井、福井、FP市原、木野㉑、菅、森⑤、髙橋㉔、戸田④、松井、津川⑰、大山、穂積㉓

（新人）FP松本良樹（中大、174cm）

③三景（東京）部長・江名英彦監督・喜田建男、マネ・塩田正博

（選手）GK佐藤、小林、西牧、F

cm）、河野興力（熊本一工、175cm）

FP喜井美雄（日体大、178cm）、金子清二（日大、182cm）、中田隆一（国士館大、166cm）、松永章（熊本市商、168cm）

⑤大崎電気工業（埼玉）部長・辻本正義、監督・井上素行、マネ簱野俊彦

（選手）GK福本、岩下、FP飯田⑲、東⑩、荒井⑮、佐藤②、井手⑦、小松原①、橋本③、坂口④前渕、新田、

（新人）FP佐伯宏治（熊本市商）武藤保宜（久留米工）、椿原美春（久留米工）

⑥三菱レイヨン大竹（広島）部長・片岡良、監督・木下弘重、コーチ・沖重順陸、マネ・渡辺登美江

（選手）GK藤本、中島、FP田中、善本⑦、岡村④、山川⑬、岩本③、大江㉚＝得点王、末広、大林重村④、武田②、村本、沖田、池田

（新人）なし

日新製鋼呉（広島）、部長・村上正樹、監督・川岡成徳、コーチ・沖谷一行、マネ・中野誠二

（選手）GK三田、FP沖谷、松木、村川、吹上、下茂、吉田、越智、湯中、浜岡

（新人）GK佐野勝典（下関中央

〃君はどうして、彼がいちばん嫌がる話をするのだ〃

〃しかし相変らずすごい。グラノリエルス（スペイン）のロカ監督が、「木野のプレーは、体格に恵まれぬスペインや日本選手の行きつく最高のものだ」といってた。パリやミュンヘンで彼は、木野のプレーばかり見てたそうだ〃

〃国内で木野ほど、打倒大同に燃えてる選手も居まい。大同にとって警戒すべきだと思う〃

〃湧永の一つのカギはGK福井。1年目は春の負傷が尾を引いて精彩がなかったが、地力があるだけに注目したい〃

自信をつけた三景

〃去年のある意味での立役者・三景に話を移そう〃

〃リーグといい、冬の全日本といい三景の活躍は、去年もっと評価されてよかった。特に全日本などあれほど大同に食い下るとは思わなかった〃

〃個人技だけのようにみえて、それをチームプレーにまとめあげる能力が、ここの選手にはある。〃

〃それが、多彩な変化技をつぎつぎと繰り出すことにつながってる

佐々木（オリンピック候補）高梨、内藤、川島、山村、加藤と、野球でいうならば、どこからでも打ち出せるラインアップだ〃

〃佐々木の配球力、単独攻撃力は木野（湧永）に迫るものがある。彼は完全に復調したね〃

〃GK佐藤が当たるようだとダークホースだ〃

〃佐々木は、はっきり「リーグの優勝を狙う」といっている。去年の自信は相当なもの。相手に戦法を覚えられたハンデはあるが喜田監督（兼FP）も2年目だし、思い切ってくるだろう〃

上位狙う大崎と三菱レ

〃残り4チームの様子はどう〃

〃大崎に明るさが戻ってきた。井上監督もいちじは「手の打ちようがない」といってたが、今季はかなりいけるとみている〃

〃チームカラーが変ったのではないか〃

〃そうだ。主戦級のFPは飯田（オリンピック候補、188cm）を除いて170cm台だ。おのずとテクニカルな戦法になる〃

〃過去の栄光を忘れて出直すためには、むしろそれがいい。井手、小松原、橋本が社会人2年目で落ちつき、小松原が一際伸びている〃

〃地味だけど佐藤の存在も大きい

問題はヒザをやられている荒井が、リーグに間にあうかどうだ。

ムリだとなると、ベテラン東の負担が大きくなりそう〃

〃GKの福本は出るのかい〃

〃去年、全日本の時、久々に見たが、ディフェンスのリードなどさすがと思わせる。大同攻撃陣に対して、胸中秘するものもあるらしい。岩下をたてながら、時おりゴールに立つだろう。〃

日本実業団リーグ・男子日程

日付	会場	試合	試合
【第1週】			
5月31日	（名古屋）	※大同—三陽	三景—大崎
	（徳　山）	日新—湧永	本田—三菱
6月1日	（名古屋）	※三陽—三景	大崎—大同
	（徳　山）	日新—本田	湧永—三菱
【第2週】			
6月7日	（東京地区）	※大崎—湧永	本田—三陽
	（呉＝予定）	大同—三景	三菱—日新
6月8日	（東京地区）	※三陽—大崎	湧永—本田
	（呉）	三景—日新	大同—三菱
【第3週】			
6月14日	（横　浜）	湧永—三陽	三菱—三景
	（京　都）	※本田—大同	
	（岐　阜）	※日新—大崎	
6月15日	（横　浜）	三菱—三陽	湧永—三景
	（四日市）	※本田—大崎	
	（名古屋）	※大同—日新	
【第4週～最終週～】			
6月21日	（大　阪）	大崎—三菱	三景—本田
6月22日	（大　阪）	日新—三陽	湧永—大同

※印はこのほかに女子の試合

P佐々木㉑、内藤⑮、高梨⑫、加藤⑪、山村⑫、川島㉔、榊、塩田喜田

（新人）FP武内健司（日体荏原高170cm）、飯島佳治（日体荏原高、175cm）

④本田技研鈴鹿（三重） 部長・堀池三郎、監督・松岡富夫、コーチ・大下幸男、マネ・加藤玉陽、

（選手）GK細野、牧原、FP勝田④、佐藤⑰、田上⑲、新実④、柳⑦、長谷川⑫、宮川⑦、矢野、豊岡、高木

（新人）GK芥川正行（津工、178

工177cm）、FP脇若正二（早大、181cm）、関本吉志（呉工、180cm）、徳田善雄（浜田水産高、174cm）、沖本賢一（呉工、174cm）

三陽商会（東京） 部長・高月英五、監督・近森克彦、マネ・荒井みどり

（選手）GK吉近、FP近森、田中、竹村、稲木

（新人）FP佐野文彦（中大、170cm）、小川和夫（中大、180cm）、緒方竜一（久留米工、170cm）、石原政周（塩山商、162cm）、梅屋正直（烏山工、185cm）

〃三菱レイヨン大竹は、メンバーがまったく不動。若手の伸びにすべてがかかってるね〃

〃去年は総得点66のうち、大江一人で30ゴールを叩き出した。山川善本、岩本、重村、岡村に思い切ったプレーを望んでおこう〃

〃同感だ。なにしろここは、実業団の最古参だ。木下監督、沖重コーチ（FP兼任）が、チーム創設以来、こつこつと積みあげた努力はなみたいていのものじゃない〃

興味深い日新と三陽商会

〃新参加の両チームは、興味あるね〃

〃日新製鋼呉は、県内では三菱レをしのぐそうだが、リーグでも一波乱期待できるかな〃

〃村上、吹上、下茂のトリオは以前から定評があったし、そこへ脇若（早大）が加わり、越智が成長した。川岡監督は「一戦々々大事に」と控え目だが、かなりいけると思う〃

〃脇若が、チームに早く溶けこむことがポイントだろう。

社会人1年目、それも上半期というのはいろいろ難しいからね〃

〃彼はオールラウンドタイプだし展開力は非凡なものがある。

ラフに流れる学生界より、洗練味のある実業団で真価がいっそう発揮できると思う〃

〃三陽商会は？〃

〃なんといっても近森だ。監督兼任だが、彼自身、リーグ入りは来年とみてたようだ。西ドイツ仕込

みのタフなハンドボールをチームに植えつけようとしているし、自分もまだまだ動ける〃

〃白柳と鈴木が抜けたが、佐野、小川(ともに中大)、緒方（久留米工）ら新人の力が高いので油断できない〃

〃監督としての近森は、オーソドックスに行くことと、捨て身で行くことを使いこなしてくる。おそらく、今回は上位チームには、捨て身でかかろうから、みものだ。

大同とオープンカードというのも興味深い〃

多くのファンが会場へ

〃ところで、大同が12人の新人を入れたほかだいぶ各チームとも新人を加えたようだが即戦力はどのあたりか〃

〃野田（大同）の話だが、今はよほどの力がない限り、実業団に入っていきなりレギュラーというのは難しいそうだ。

特に、今シーズンは、モントリオールを目指して、有力選手がすべて健在、入りこむスキがない。

そのなかで、すぐにも第一線へとび出してくるとすれば、大原（京都産大—大同）、松本（湧永）、喜井（本田）、脇若（日新）だろう〃

〃喜井以外の3人は、今春の世界学生選手権代表だ。新人王争いもこの4人かな〃

〃三陽は、いわば全員が新人だしあとは、久留米工の椿原、武藤（ともに大崎）、緒方（三陽）のインターハイ優勝トリオ〃

〃最後に、男女を通じて、このリーグへの希望を話しあおう〃

〃たくさんのファンが見に来て下さることが第一、それに関連してファンに見てもらうという意識を運営者がもつこと〃

〃去年の男子は、特に第二の点で反省があった。ハンドボール界は相変らず、二つのチームが集ってきて試合をすればいいという考えかただ。場内のファンへのサービスがまったくといってよいほど無い〃

〃ホームチームは、必ず女性の場内アナウンサーを用意する、などと決めたらどうだろう〃

〃全日本実連や参加チームは「日本リーグ」を名乗ることを望んでいるようだが、サッカーやバレーボール、アイスホッケーなど先発している日本リーグと肩を並べるには、組織が不充分だ〃

〃専従の運営委員を決めて、よほど腰を据えてかからないと、お寒い日本リーグになってしまう〃

〃日本協会の「日本選手権リーグ」構想は、どうやら御破算のようなので名儀の使用は問題あるまい〃

〃ともかく、よい試合をすればファンは集るのだから、あとはどう「見ていただくか」だね〃（了）

大同製鋼、順調な滑り出し
朝日杯ビッグフォアリーグ

朝日杯争奪第2回全日本実業団男子選抜大会（ビッグフォアリーグ）は、4月11・12の両日、東京・駒沢体育館で行われ、大同製鋼（愛知）が圧倒的なチーム力をみせ2年連続優勝を飾った。

大崎電気（埼玉） 20（11－11、9－7）18 三景（東京）

大同製鋼（愛知） 24（11－7、13－4）11 湧永薬品（大阪）

湧永薬品 18（8－10、10－4）14 大崎電気

大同製鋼 23（15－9、8－5）14 三景

【大崎】	得		得	【湧永】
岩下	0	GK	0	今井
福本	0	GK	0	福井
飯田	5	FP	3	木野
東	4		4	高橋
佐藤	1		1	戸田
井手	0		1	森
小松原	0		3	津川
橋本	2		1	松本
坂口	0		0	大山
前渕	2		5	穂積
新田	0		0	松井
佐伯	0		0	市原
	14（0）	7MT	（0）18	

【三景】	得		得	【大同】
佐藤	0	GK	0	柳川兄
小林	0	GK	0	倉谷
佐々木	6	FP	0	野田
内藤	0		5	藤中
高梨	1		2	中井
加藤	3		4	松原
山村	0		2	花輪
川島	4		9	柳川弟
榊	0		0	北村
飯島	0		0	守田
喜田	0		0	更谷
武内	0		1	中本
	14（1）	7MT	（1）23	

湧永薬品 23（12－5、11－10）15 三景

大同製鋼 22（12－4、10－6）10 大崎電気

【順位】①大同製鋼3戦全勝②湧永薬品2勝1敗③大崎電気1勝2敗④三景3敗

○……企業チームにとって「年度替りのこの時期はいちばん忙しい」（三景・塩田マネ）、「しばらく公式戦からはなれていた。調子がいいとか、悪いとかいえる段階ではない」（湧永・村中監督）というように、もう一つピリッとした内容がなく、特にディフェンス面での未調整が目立った。

○……そのなかで、大同だけは、グラノリエルス（スペイン）戦をこなした直後だけに、チーム力が整っており、柳川弟（オリンピック候補）、北村、中本ら若手が張りきったプレーで精彩を放った。

その他の3チームでは、負けこしたものの大崎が、復調の兆をのぞかせた。

飯田（オリンピック候補）、東への依存から脱け出し、小松原、佐藤、井手、橋本らのプレーに歯切れのよさがでてきている。小松原の安定が特にいい。

これで、ヒザ痛の荒井が戦列に戻れば、久々に上位を狙えよう。

○……湧永は、やはり、ここぞという時に木野（オリンピック候補）高橋のプレーが冴えたが、津川、穂積（ともにオリンピック候補）が完全にチームへ溶けこんだので、シーズンが深まれば、打倒大同の一番手となろう。

三景は、練習不足で得意のコンビネーションプレーがまとまらず出遅れたが、「リーグまであと一カ月以上ありますし…」と喜田監督は心配していない。

○……各チームとも、レギュラー健在で、ほとんど新人を使わなかったが、湧永だけは、早くも松本（中大）を、フルタイムに近く起用、期待の大きさを示した。

個人賞は、最多得点賞が17ゴールをマークした柳川弟（大同）、最優秀ディフェンスマンが中井（大同、オリンピック候補）、最優秀新人が松本（湧永）だった。

（Z）

さびしかった観客席

青木敬子

全般的に言って全く盛り上がりがなかった。それがいちばん残念である。場所が不便だったし、平日だったせいもあると思うが、東京で試合をする機会もあまりないのでもっとたくさんの人に実業団のプレーを見てほしかった。あんなに寂しいのでは選手はもちろんのこと観客としても張り合いがない。今、ハンドボール界に必要なことはひとりでも多くの人にハンドボールと言うスポーツを知ってもらうことだと思う。

試合面ではどのチームも多彩な攻撃でおもしろかったが、やはり大同が圧倒的な強さを発揮した。その原因はなんと言ってもディフェンスの連係にあるのではないだろうか。攻撃陣が入ってくるとピストンのように前後、左右に素早く動く。それはまるで去年の東ドイツをも思わせる。そして今までの日本のチームにありがちな後半スタミナがなくなるというのとは反対にじりじりと力を出すのである。だから相手のチームは後半になると大同の厚いディフェンスにしびれをきらして単調なシュートをしてしまう場合が多かった。その上、日本一だという余裕が随所にみられた。一日も早く大同を脅かすようなチームが出てくることを期待したい。

もう一つ気づいたことは7mスローの失敗である。シーズン初めなせいか私の見た範囲では半分決まっていたかどうか。もう少し確実に決めてほしかった。点につながる大事なシュートなのだし、それによって試合の局面、流れを大きく変えることもできるのだから……。

（読者）

日本のハンドボールを世界の最高峰へ!

（協賛者御芳名・順不同）

三菱レイヨン株式会社

（株）神戸製鋼所
神戸市葺合区脇浜町1丁目3番18号
電話（078）251—1551番（大代表）

京都府ハンドボール協会
会長　木下彌三郎

上田茂行

杏林会　金岡病院
堺市中長尾町2丁82
TEL 0722—52—2461（代）

中川石油株式会社
盛岡市菜園1丁目7番17号
電話（0196）23—（代）3241〒020

東京渋谷　株式会社　村田自動車工場
東京都渋谷区神宮前6—19—20
TEL 03—407—3731（代）

水谷印刷所
三重県三重郡朝日町縄生628番地
TEL（059377）2525

大福砿油株式会社
大阪市福島区堂島浜通4—26
TEL 06—451—7271

塩山病院
山梨県塩山市上於曽
TEL 055333—2029

大分県ハンドボール協会々長
脇屋長可（わきやながよし）
脇屋ながよし事務所　大分県別府市中央町9—12
TEL（23）6737（22）1421

茨城トヨペット
取締役社長　幡谷祐一
〒310 水戸市千波町2028—1 TEL 41—1111（大代表）

日新製鋼株式会社呉製鉄所
呉市昭和通7丁目　郵便番号737
電話（0823）24—1111（代表）

山梨県ハンドボール協会
会長　中村太郎

割ぽう「新らく」
東京都港区新橋4—18—14
TEL 03—（431）1661代表

球技用品，服装，其の他全般スポーツ用品
北山スポーツ
明石市本町二丁目1の11（明淡国道魚棚筋西入）
TEL 078—918—3222

平岡歯科医院
院長　平岡治雄
大阪市西区江戸堀北通り2—3
新坂ビル内　TEL 06—441—4705

東北マッチ株式会社
盛岡市厨川字穴持90
電話（0196）47—1161〒120—01

不動産のカントラ（フドウサン）　大阪・堺
TEL 0722—33—0003
0722—22—2103

（株）コーベツーリスト
神戸市生田区元町通7丁目18—1
TEL（078）371—0080

この広告に関するお問合せは日本ハンドボール協会へ

坐禅や空手道で"修行"

全日本男子、四国で強化合宿

モントリオール・オリンピックまであと1年3ケ月。

男子ナショナルチーム（モントリオール第1次候補選手）は、2月27日から春の早い四国の松山と新居浜市を合宿地に選び、冬眠を破る強化合宿(49年度第7次)を行った。

以下は竹野奉昭監督からのリポートである。

今回の合宿は、①体力の強化②基礎技術の復習とともに③空手道と坐禅による精神訓練を初めての試みとして盛りこんだ。

ナショナルプレイヤーの必須条件は心・技・体と云われるが、ともすれば通常のトレーニングは技・体にしぼられ勝ち。

すでに一流の折紙をつけられた選手たちに「心」は当然あるものとされるわけだが、さらに、それに磨きをかけようとしたことと、武道のもつ心・技をハンドボールに活かそうとしたのが、今回の合宿目標の発想点だった。

とは云え坐禅も空手道も、大半の選手が初体験。

早朝、松山市内の極楽寺にでむき、開祖道元禅師の曹洞宗の作法にのっとった坐禅は、ももやふくらはぎの発達した選手たちには、たいへんな難行、苦行。

苦手の正座や胡座に目を白黒させながらも頑張り通す選手の姿は貴重であった。

空手は、愛媛協会常務理事の玉田貢氏が、克心館師範、6段という腕前であったため、氏の指導のもとに、「攻防の間合」「体さばき」「呼吸の使いかた」を中心に指導をうけた。

柔軟性を増すために「真向法」なる体操で脂汗をながし、正拳、連続突き、逆突き、下・中・上段払いからのすばやい反撃など、ふだんはあまり使わない筋肉を動かしてのものだけに、節々の痛みは朝の坐禅の苦しみとのダブルパンチであった。しかし、各選手の意気ごみは、なれない生活をも吹きとばし、3日目からは「約束組手」が許されるほどに上達、玉田氏の顔をほころばせた。

合宿地を新居浜市に移してからも、新居浜商高の真木(5段)、村上(4段)両教諭をわずらわし、空手の訓れんをつづけた。

真木崇氏は、同校の女子ハンドボール部監督として昭和44年のインターハイ優勝を遂げているほかつねに同校を国内最上位に育てあげているだけに、ハンドボールにも空手道をいかに活かすか、説得力のある指導だった。

特に「気・拳・体」の一致による最大の攻撃力や「心・体・術」の三身一体などは、言葉としてのみこめていたが、実際に教えをうけてみてはじめて納得できるものであり、今後の練習、試合でぜひとも活かしたいと思ったものだ。

極楽寺の老師・道元禅師が「我執を捨てよ」と訓話されたことも印象的であった。

これは、師が3月2日の対丸善石油それに我々の紅白戦を観戦された翌朝の坐禅のあとに話されたものである。

己れが、己れがと自分だけの小さい考えかたにとらわれてプレーをしている時には得点がとれず、全員が協力して、パスで、心で継いだ時にのみ得点が成功しているとの慧眼には恐れいったし、ハンドボールを初めて観られた感想として「ラグビーやサッカーはいささかの偶然性を持つスポーツと思うがハンドボール競技は手で操作するので、人間がより支配するスポーツのようです」と述べられたことも、我々に心技をいっそう鍛えなければならぬという教えになった。

なお、今回の合宿は、愛媛協会各位の献身的なご協力によって行われたもので、地元愛好者から我々に絶大なる拍手と激励が贈られたこととともに感銘を覚えた。

ナショナルチームは、全国関係者の信頼と支援の上に立ち、けして孤立することなく運行されてこそ、国際進出もなるのだと思う。

今後も、こうした地方との親密な交宜の場所を与えていただきたいと希望します。（竹野奉昭）

◇公開試合（15分ハーフ）

全日本 18―3 丸善石油松山

全日本 17―5 住友化学菊本

ヤングも合宿 ヤング全日本の強化合宿が、3月20日から3日間、東京練馬の自衛隊体育学校で強化合宿を行った。

現在、ヤング全日本にリストアップされている選手は16名だが、試験などで3名が欠席した。

なお、鈴木康正選手は三陽商会から名城大学に、布施雅夫選手はセントラル自動車から氷見クラブに所属が変わった。

50年度の強化合宿 全日本男子・竹野奉昭監督と東嘉伸コーチは、50年度の強化合宿について計画をねっていたが、プレオリンピック（9月25日〜10月3日、モントリオール）を境に、とりあえず前期5回の実施を決めた。

また、女子は6月16日から名古屋で第1次、8月に第2次を行うことが内定している。

はんどぼうる いろはかるた

い　生きてるうちにパスをせよ
ろ　ロングパス、狙ってつぶせ敵速攻
は　ハンドアップで大きく見せよ
に　逃げの攻撃　負けいくさ
ほ　ボールは目で追え、足で追え
へ　ベンチの指示を忠実に
と　ドリブルは使い方で威力増し
ち　チェンヂディフェンスゾーンのはじめ
り　力んだシュートスピード乗らず
ぬ　抜いたら始末を確実に
る　ルールは審判、選手はプレー
お(を)　大きい相手は早目に詰めよ
わ　ワンドリブルで相手を崩せ
か　カットは惑わず、ボール見て
よ　弱いところをまづ探せ
た　高く跳べ、スカイプレーは着地まで
れ　練習でできないことを試合でするな
そ　速攻は捉えられずにシュートまで
つ　詰めを早めて動きを止めよ
ね　狙って通すなポストのボール
な　失くせ凡ミス、基礎練習
ら　ラインは魔物、あなどるな
む　無理なシュートはピンチをまねく
う　後の敵に気をつけよ
の　野放しサイドは失点のもと
く　喰いつけ離すなマンツウマン
や　休まず攻めよ、5人の守り（1名退場中のプレー）
ま　股下狙え、飛び出しキーパー
け　ケガも実力のうち
ふ　ブロックプレーはていねいに
こ　声の掛け合い良い防御
え　遠投力は常日ごろ
て　手に当てたボールは自分で処置をせよ
あ　足が止まらぬ良いプレー
さ　サイドボールは飛び込み注意
き　キャッチの位置は移行せよ
ゆ　ゆさぶり戦法、目先をかえる
め　目立たぬ守り、勝ちを呼ぶ
み　ミスは勝負を左右する
し　じっくり攻めてここ一本
ひ　広い間隔、ディフェンスピンチ
も　もり沢山に無駄多し
せ　狭いところに突っこむな
す　ストップは次の動作の第一歩
ん　うんと励んで胸に日の丸

作・東　嘉伸（全日本男子コーチ）

円光クラブ（男子）が来日
実連ジュニア、自衛隊選抜らと対戦
恒例の日韓交流

全日本実連は、昨年度行うことのできなかった第4回日韓男子社会人交流を、5月16日から25日までのあいだ「円光クラブ」を招き大阪など5都市で開くと発表した。来日チームは役員4、選手13名で金弘植、鄭鎮均、李明煥らのトッププレイヤーがいる。

韓国男子社会人の来日は、47年11月の釜山旅客自動車以来のこと。日本側では実連ジュニア選抜と全自衛隊選抜が、初の国際試合を行うのが注目される。

これまで3回の通算成績は日本側の15戦9勝1分5敗。

○……日　程……○

来日・5月16日（大阪）、第1戦・18日　対大阪社会人選抜（大阪市立千島体育館）、第2戦・20日17時20分　対全日本実業団ジュニア選抜（岐阜県民体育館）、第3戦・21日18時、対愛知実連選抜（名古屋市体育館）、第4戦・23日18時　対神奈川実業団選抜（横浜平沼記念体育館）、第5戦・24日15時　対全日本自衛隊選抜（東京駒沢体育館）、帰国　25日（羽田）

○……来日メンバー……○

▽団長、朴載録▽監督　安用局▽コーチ　申吉洙▽総務　徐康錫▽選手・GK具善根、崔大鎬▽FP権五衡、鄭鎮均、金鍾順、金在錫、金弘植、趙南信、李明煥、崔圭千、裴恵文、姜尚遠、金章燮

◇

実連Jの陣容　全日本実連は、5月20日岐阜県民体育館で韓国円光クと対戦する「全日本実業団ジュニア選抜」の陣容を次のように決めた。

▽監督　松岡富夫（全日本実連技術部長、本田技研鈴鹿監督）、▽GK牧原（本田技研鈴鹿）、岩田（日本耐酸壜）▽FP中本、北村、守田（以上大同製鋼）前渕、新田坂口（以上大崎電気）、長谷川、伊丹（以上二和家具）、須藤、大谷（以上神戸製鋼）、越智（日新製鋼）、矢野（本田技研鈴鹿）

全日本学生（男女）が遠征

学連、団長に山崎剛氏決める

全日本学連は、4月13日東京で開いた全国役員会で、6月の第9回（女子第4回）日韓学生交流について協議、これまでどおり「全日本学生選抜軍」を派遣することになり、団長として山崎剛氏（全日本学連理事、九州学連理事長）監督に勝瀬幸貞氏（同、東海学連理事長）、総務役員に久保義雄氏（同）を決めた。また、マネジャーは男子が伏見和則（全日本学連委員長、早大）、女子が宮城薫（同会計委員、東京女体大）の両君。

随行審判員、男女各コーチ、選手は後日に発表される。

遠征は6月16日から25日までの予定である。

春の学生シーズン開幕

春の学生シーズンのトップを切って関西学生リーグ戦が、4月20日京都でその幕をあけた。

注目の男子1部第1週は、優勝候補にあげられている大阪体大が近大を24—2、京都産大が阪大を11—10で破り、同志社も甲南を22—7で降し、無難なスタートを切った。また、近大は大阪経大を16—8で破っている。

このほかの地域では、関東学生が4月27日男子2部の東京教大×順天堂戦でスタート。

早稲田、法政、日体、中央の〝4強戦〟は5月5、9、11日の3日間（5日は駒沢屋内球技場9、11日は駒沢体育館）に展開される。

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

海外トピックス

杉山茂
（NHK運動部）

フランクフルト（東独）初優勝

〜男子ヨーロッパカップ〜

第15回男子ヨーロッパカップ決勝戦、ASK・V・フランクフルト（東ドイツ）×RK・ボラクバンヤ・ルカ（ユーゴ）の試合は、4月13日、西ドイツドルトムントのウエストハーレン体育館に四千の観衆を集めて行われ、フランクフルトが僅差でルカを振り切り初優勝した。東ドイツ代表の優勝は第7回のDHFK・ライプチッヒ以来のこと。

ASK・V・フランクフルト（東独） 19（10—9 9—8）17 RK・ボラク・バンヤ・ルカ（ユーゴ）

○……東欧同士の決勝とあって観客の出足は伸びず、この会場を使っての決勝としては2年前のMAI・モスクワ（ソ連）×パルティザン・ブジェロバル（ユーゴ）戦の五千を下廻る〝最低記録〟となってしまった。

得	【フランクフルト】		【ルカ】	得
0	ペーチェ	GK	アルスラナジッチ	0
1	グラスマン	FP	セレク	6
4	ピーチエ		ラデノビッチ	4
3	ヴエバル		カリリッチ	5
6	ローズ		ヤンチク	0
1	シュミット		ウニカニッチ	0
2	エンゲル		ビジエリッチ	0
1	ヴォルター		ブイノビッチ	1
0	フィドリッヒ		ブクキ	0
0	メイエル		E・ゴリッチ	0
1	ベイヤー		M・ゴリッチ	1
19	（1）	7MT	（1）	17

（審判）スベンソン、クリステンセン（デンマーク）

しかし、試合は、国際的プレイヤーを主力とした両チームの激しい攻防でもつれ二転三転した。

フランクフルトはピーチェの活躍で先行したが、ルカは20分すぎから反撃に転じ、リードを奪う場面もあった。

○……フランクフルト1点のリードで後半に進んだが、ルカは4分までに2ゴール、逆転した。一進一退から勝負は終盤にかかり、場内も熱っぽさを増したが、フランクフルトは10分すぎシュミット、ローズで14—12と優位に立ち、23分には17—14と初の3点差をつけた

残り2分18—15、勝負は決まったかにみえたが、ルカも粘り28分50秒と29分20秒セレクの連続得点で17—18、場内騒然となったがフランクフルトはタイムアップ寸前ローズがダメ押し点をたたきこみ激戦の幕を閉じた。

○……地元の期待グンメルスバッハ（西ドイツ）、強豪ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）の敗退で盛りあがりが心配された決勝だがさすがに、世界一のクラブチームを決めるにふさわしい熱戦、カップ史上に残る好試合といえた。

フランクフルトのエンゲル、シュミット、ピーチュは昨秋、ルカのアルスラナジッチ、ラデノビッチは一昨秋来日している。

＜訂正＞前号本欄で、ボラック・バンヤ・ルカ×ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）の準決勝は、第1戦19—17、第2戦11—13の1勝1敗、得点合計30—30となり、第1戦勝者のルカが規定により勝者となった、と伝えました。しかし、その後の調べで、1勝1敗、得点も同じ場合は、相手コートでの得点の多少によって勝者が決定される規程によったものであることが判りました。

このカードは、第1戦がブカレスト（ステアウアのホームコート）第2戦がベオグラードのボリク・ホール（ルカ側の本拠地）で行われており、したがって第1戦のルカ19点、第2戦のステアウア13点が、決め手になったものでした。訂正させていただきます。

スパルタキエフ（ソ連）5度目

〜女子ヨーロッパカップ〜

第14回女子ヨーロッパカップ決勝戦、スパルタ・キエフ（ソ連）×ロコモテイブ・ザグレブ（ユーゴ）の試合は、4月5日、ザグレブのスポーツホールに四千のファン（満員）を集めて行われ、キエフが前半からリードを奪い快勝、2年ぶり5度目の優勝を遂げた。

ソビエト代表の優勝は8度目。

スパルタ・キエフ（ソ連） 14（8—5 6—5）10 ロコモティブ・ザグレブ（ユーゴ）

アメリカ女子動き出す　これまで、まったくその動きが伝えられてこなかったアメリカとアイスランドの女子が、2月末対戦しアイスランドが地元の利と、攻守に一日の長を示し21—8、19—5で連勝した。

イスラエル活溌　モントリオールを目指すイスラエル（男子）は、本誌128号で報じた西ドイツB戦のあと、さらにフインランド、オランダを転戦した。

フインランド 19—13 イスラエル
フインランド 16—15 イスラエル
イスラエル 19—18 オランダ

九州高校生選抜

男子で宇土（熊本）勝つ　女子は大分東

九州高校生選抜大会は、今年で3回目を迎え3月26日から28日までの3日間、福岡・東海大球技場に男女それぞれ7県16校が集まり行われた。

大会は4組の予選リーグのあと各組勝者で決勝トーナメントを争い、男子の準決勝、決勝はいずれも1点差という激戦。宇土（熊本）×沖縄工（沖縄）の決勝は、宇土が前半のリードを辛くも活かして、大反撃の沖縄工を振り切った。初優勝。

女子は、熊本—大分の対抗となり興味を盛りあげたが、準決勝で前年優勝の熊本女商を降した大分東が、決勝でも熊本市立を破り、第1回（昭48）についで2度目の栄冠を飾った。

▽男子予選リーグ・Aパート

宇土（熊本）12—8 小倉西（福岡）
泉ケ丘（宮崎）15—7 佐賀農（佐賀）
小倉西 24—4 佐賀農
宇土 15—4 泉ケ丘
小倉西 16—6 泉ケ丘
宇土 11—10 佐賀農

【順位】①宇土②小倉西③泉ケ丘④佐賀農

▽同Bパート

小倉工（福岡）22—2 西都商（宮崎）
佐世保北（長崎）11—7 加治木（鹿児島）
小倉工 16—2 佐世保北
加治木 10—7 西都商
小倉工 7—5 加治木
佐世保北 11—3 西都商

【順位】①小倉工②佐世保北③加治木④西都商

▽同Cパート

若松（福岡）11—2 佐賀商（佐賀）
大分東（大分）12—10 長崎工（長崎）
長崎工 11—9 若松
大分東 15—7 佐賀商
若松 8—7 大分東
長崎工 21—6 佐賀商

【順位】①長崎工②大分東③若松④佐賀商

▽同Dパート

沖縄工（沖縄）12—8 済々黌（熊本）
鶴崎工（大分）10—9 門司（福岡）
沖縄工 10—3 門司
済々黌 9（分）9 鶴崎工
沖縄工 19—8 鶴崎工
門司 9—8 済々黌

【順位】①沖縄工②鶴崎工③門司④済々黌

▽同決勝トーナメント・1回戦

宇土 10（6—2、4—7）9 小倉工
沖縄工 13（6—7、7—5）12 長崎工

▽同3位決定戦

長崎工 13（7—3、6—8）11 小倉工

▽同決勝

宇土 10（8—2、2—7）9 沖縄工

▽女子予選リーグ・Aパート

熊本市立（熊本）6—4 国分実業（鹿児島）
浦添（沖縄）7—6 佐世保商（長崎）
国分実業 9—6 浦添
熊本市立 8—4 浦添
国分実業 14—9 佐世保商
熊本市立 11—4 佐世保商

【順位】①熊本市立②国分実業③浦添④佐世保商

▽同Bパート

佐賀女（佐賀）9—3 加治木（鹿児島）
別府青山（大分）13—8 筑紫女（福岡）
佐賀女 9—3 筑紫女
別府青山 12—3 加治木
別府青山 7（分）7 佐賀女
加治木 4—3 筑紫女

【順位】①別府青山②佐賀女③加治木④筑紫女

▽同Cパート

熊本女商（熊本）18—4 都城西（宮崎）
福岡女（福岡）5（分）5 佐世保北（長崎）
熊本女商 20—5 福岡女
都城西 10—7 佐世保北
熊本女商 7—2 佐世保北
都城西 10—9 福岡女

【順位】①熊本女商②都城西③福岡女④佐世保北

▽同Dパート

神埼農（佐賀）14—9 小林商（宮崎）
大分東（大分）17—2 古賀（福岡）
神埼農 13—4 古賀
大分東 8—6 小林商
大分東 7—5 神埼農
古賀 9—8 小林商

【順位】①大分東②神埼農③古賀④小林商

▽同決勝トーナメント・1回戦

熊本市立 14（8—3、6—5）8 別府青山
大分東 4（2—2、2—1）3 熊本女商

▽同3位決定戦

会告

日本協会では3月29日の全国理事会で、機関誌「ハンドボール」の刊行を、これまでの編集部から、理事長直轄の編集委員会によって手がけることを決めました。

引きつづき本誌をご愛読いただきますようお願いいたします。

昭和50年5月1日

日本ハンドボール協会

熊本女商 11（6－2 5－2）4 別府青山
▽同決勝
大分東 9（6－2 3－2）4 熊本市立

各地の記録

高校Aは男女とも麻生
初の北関東大会開く

埼玉、群馬、茨城、栃木の4県による第1回北関東大会は4月3・4の両日、群馬・富岡高球技場に5部門19チームが参加して行われた。

注目の高校は、男女とも各県1位校によるAグループと、各県2位校によるBグループの二組に分ける新しい試みが採られ、Aグループは麻生(茨城)が男女優勝を飾った。教員は栃木が全日本教職員2位の茨城を破って首位となり注目された。

▽高校男子Aグループ
川口工(埼) 17－7 富岡(群)
麻 生(茨) 14－8 国学院栃木
国学院栃木 8－1 富 岡
麻 生 15－9 川口工
麻 生 14－3 富 岡
川口工 14－13 国学院栃木
【順位】①麻生②川口工③国学院栃木④富岡
▽同Bグループ
菖 蒲(埼) 14－4 前橋商(群)
水海道一(茨) 10－8 馬頭(栃)
馬 頭 11－1 前橋商
水海道一 22－8 前橋商
水海道一 13－11 菖 蒲
馬 頭 8－7 菖 蒲
【順位】①水海道一②馬頭③菖蒲④前橋商
▽高校女子Aグループ
桐生女(群) 10－7 深谷女(埼)
麻 生(茨) 13－9 小山城南(栃)
小山城南 15－3 桐生女
麻 生 14－3 深谷女
麻 生 11－4 桐生女
小山城南 12－7 海谷女
【順位】①麻生②小山城南③桐生女④深谷女
▽同Bグループ
前橋市女(群) 11－4 浦和市立(埼)
国学院栃木 8－3 鉾田(茨)
国学院栃木 11－4 前橋市女
鉾 田 12－2 浦和市立
前橋市女 8－4 鉾 田
国学院栃木 17－5 浦和市立
【順位】①国学院栃木②前橋市女③鉾田④浦和市立
▽教員（3チームリーグ）
茨城教員 23－16 群馬教員
栃木教員 17－14 茨城教員
栃木教員 15－5 群馬教員
【順位】①栃木②茨城③群馬

本誌編集委員会では、読者各位からの寄稿、投稿を積極的に求めます。ふるってお送り下さい

◇モントリオールへの道 男女頂点強化、同ナショナルチームに対する建設的な提言。850字（厳守）

◇明日への提言 ハンドボール界全般への意見、感想。500字。

◇市民ハンドボールの芽 あなたの周囲の市民ハンドボール活動リポートまたは市民ハンドボールへの提言。字数自由。

◇海外の動き 海外ハンドボール界の情報。字数自由。

◇技術リポート ハンドボール技術及び歴史に関する研究論文（ただし未発表のものに限る）二千字以上。

◇観戦記 全国大会、国際試合に限る。写真添付も可（採用の場合撮影実費支給）

〔注〕 以上の原稿は、用紙は自由ですが、必ずタテ書きでお送り下さい。締切日は特になし。原稿はお返ししません。

◇各地の記録 市大会以上の公式試合記録(スコア)を、大会終了後2週間以内にお送り下さい字数、用紙自由。ただし原文を短かくすることがあります。

◇編集委員・通信員募集、本誌の編集、取材に興味あるかたを募ります。18才以上、ハンドボール経験の有無は問いませんが「無報酬」です。ハガキでご一報を。

男女とも清水商勝つ

▼静岡県高校室内選手権（2月・草薙体育館）
▽男子準決勝
清水商 24－7 周知春野分校
静岡農 15－11 後殿場
▽同決勝
清水商 18－8 静岡農
▽女子準決勝
清水商 8－5 御殿場
清水西 5－1 浜松南
▽同決勝
清水商 9－6 清水西

男子は商大高に栄冠

▼横浜市民大会ハンドボール競技
（4月・横浜東高）
▽高校男子準々決勝
横浜商工 9－7 関東学院
県 商 工 20－4 浅 野
慶 応 6－3 立 野
商 大 高 12－9 桐 蔭
▽同準決勝
県商工 10－5 横浜商工
商大高 13－10 慶 応
▽同決勝
商大高 10（4－4 6－5）9 県商工
▽同女子準々決勝
平 沼 6－3 立 野
京浜女子 7－1 川 和
東 6－1 南
明 倫 11－1 日 野
▽同準決勝
京浜女子 5－2 東
明 倫 8－0 平 沼
▽同決勝
明 倫 9（4－2 5－4）6 京浜女子

編集後記

□……多難な年といわれる新シーズンが幕をあけました。

執行部は、田村―荒川ラインが〝信任〟され、新たな気持ちでのスタートですが、待ちうける課題は、いずれも日本協会の屋台骨を揺るがせかねぬ難問ばかりです。

□……本誌の編集担当も、31頁会告のとおり、改組されましたが、いっそうの内容充実を企っての措置であり、読者各位のバックアップを改めてお願いする次第です。

新スタッフは、5月中に編成できる見通し。

□……27頁の「いろはかるた」ちょっと時季はずれですが、往年の名手・東嘉仲氏の労作だけに、ピリっとした味の名文句が並んでます。

練習のあいまにでも思い出していただけたらと、時節にこだわらず、ご紹介しました。

□……グラノリエルスの人たちにあって、ヨーロッパのトップチームが、セミプロ化していくような感じを深めました。

いいことか、悪いことかの論議は別として、本場におけるハンドボールの人気、支持の高さを知らされたことでした。（Q）

鍛えぬかれたフォームにこそ、メカの真髄がある

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第一三〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
五〇年四月二十五日印刷 昭和五〇年五月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京 区神南一-一-一
電話 代表(467)三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百五十円（年間購読料二千五百円）